

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

多肥北原遺跡

2012.3

香川県教育委員会

序文

本書は、県道太田上町志度線の改築工事に伴い発掘調査を実施した香川県高松市多肥上町の多肥北原遺跡の報告を収録したものです。

本遺跡では7世紀～奈良時代頃の堅穴建物及び掘立柱建物が見つかりました。当時期の集落遺跡は、高松平野で数少ないものです。また、平安時代の縁軸陶器、灰軸陶器や瓦が出土しており、当遺跡近隣に所在が推定されている古代寺院との関わりが考えられます。

本報告書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月
香川県埋蔵文化財センター
所長 藤好 史郎

例 言

1 本報告書は、県道太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した、香川県高松市多肥上町に所在する多肥北原遺跡（たひきたはらいせき）の報告を収録した。

2 発掘調査は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。

3 発掘調査期間は、次のとおりである。

平成 21 年度

期間 平成 21 年 8 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

担当 文化財専門員 山下平重、文化財専門員 藏本晋司、調査技術員 今井千佳子

4 調査にあたって、次の関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県高松土木事務所、道佐古自治会、多肥東水利組合

5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆・編集は、山下平重が担当した。

6 報告書で用いる座標系は国土座標第IV系（世界測地系）で、方位の北は国土座標第IV系による。また、標高は東京湾平均海水面を基準とした。

7 遺構は次の略号により表示した。

S H 竪穴建物 S B 挖立柱建物 S P 柱穴 S K 土坑 S D 溝状遺構

S X その他の遺構 S R 自然河川

8 第3章遺構名の後の（ ）内の表記は、付図での遺構の位置する区画（20m四方）を示している。

9 石器実測図中、網掛けで表現している部分は摩滅痕を、輪郭線周りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損面は黒でつぶしている。石器石材は特に表記がない限りサスカイトである。

10 本遺跡出土の金属器（耳環）の保存処理は、財團法人元興寺文化財研究所に委託して実施した。

11 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位m）である。

- 12 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 2010 年版』を参照した。胎土中の砂粒の「粗」は径 4mm 以上、「中」は 0.5mm 以上、「細」は 0.5mm 未満を基準とした。また、残存率は遺物の固化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

* 地図は国土地理院地形図を使用しました。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査体制・整理体制	2

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 調査区の概要と層序	9
第2節 遺構と遺物	9
1 7世紀～奈良時代	9
2 平安時代	38
3 中世以降	38
4 ピット等出土遺物	40
5 包含層等出土遺物	42
6 出土石器及び金属器	42

第4章 まとめ	46
---------	----

挿図目次

第1図	道路位置図	1
第2図	周辺の道路	5
第3図	調査区割図	6
第4図	遺構配置図	7
第5図	1区調査区壁土層断面図	10
第6図	2区調査区壁土層断面図	11
第7図	3区調査区壁土層断面図	12
第8図	4区調査区壁土層断面図	13
第9図	7・8区調査区壁土層断面図	14
第10図	SH01平・断面図、出土遺物	15
第11図	SH02平・断面図、出土遺物	16
第12図	SH03平・断面図、出土遺物	17
第13図	SH04平・断面図、出土遺物	17
第14図	SH05平・断面図	18
第15図	SH06平・断面図、出土遺物	18
第16図	SH07平・断面図、出土遺物	19
第17図	SH08平・断面図、出土遺物	20
第18図	SH09平・断面図、出土遺物	21
第19図	SH10平・断面図、出土遺物	22
第20図	SH11平・断面図、出土遺物	23
第21図	SH12平・断面図、出土遺物	24
第22図	SH13～15平・断面図	25
第23図	SH13～15出土遺物	26
第24図	SX16平・断面図、出土遺物	26
第25図	BSH01平・断面図、出土遺物	27
第26図	SB01平・断面図、出土遺物	28
第27図	SB02平・断面図、出土遺物	28
第28図	SB03平・断面図、出土遺物	29
第29図	SB04平・断面図、出土遺物	29
第30図	SK03平・断面図、出土遺物	30
第31図	SK10平・断面図	30
第32図	SK11平・断面図	30
第33図	SK13平・断面図、出土遺物	31
第34図	SK14平・断面図	31
第35図	SK20平・断面図、出土遺物	32
第36図	SK21・22平・断面図、出土遺物	33
第37図	SD01～03平・断面図、出土遺物	34
第38図	SD14平・断面図、出土遺物	34
第39図	SD15平・断面図、出土遺物	35
第40図	SD17出土遺物	35
第41図	SD19平・断面図、出土遺物	36
第42図	SX02平・断面図、出土遺物	37
第43図	SX03平・断面図	37
第44図	SX10平・断面図	38
第45図	SP13出土遺物	38
第46図	SK24平・断面図、出土遺物	39
第47図	SK01平・断面図、出土遺物	40
第48図	SK02平・断面図	40
第49図	SK12平・断面図	40
第50図	ピット等出土遺物1	41
第51図	ピット等出土遺物2	42
第52図	包含層等出土遺物1	43
第53図	包含層等出土遺物2	44
第54図	包含層等出土遺物3	45
第55図	出土石器及び金属器	45

表目次

第1表	平成21年度発掘調査体制一覧表	2
第2表	平成23年度整理作業体制一覧表	2
第3表	土器観察表	47
第4表	石器観察表	59
第5表	金属器観察表	59

図版目次

図版1	調査区全景 東から	
1区	完掘全景 東から	
図版2	1区 完掘全景 西から	
2区	完掘全景 南から	
図版3	2区 完掘全景 東から	
	3区 第2遺構面完掘全景 西から	
図版4	4区 完掘全景 東から	
	4区 完掘全景 西から	
図版5	5区 完掘全景 東から	
	5区 完掘全景 南から	
図版6	6区 完掘全景 東から	
	6区 完掘全景 西から	

図版 7	SH11 南北断面（北半） 東から
7 区 完掘全景 西から	SH11 煙道断面 北から
7 区 完掘全景 東から	SH11 瓦炭・焼土検出 南から
図版 8	SH11 瓦炭面 南から
1 区 東壁土層断面（北端付近） 西から	SH12 完掘 北から
1 区 東壁土層断面（SX10 付近） 西から	SH12 断面 南から
1 区 南壁土層断面（SH06 付近） 北から	国版 15
1 区 南壁土層断面（SH05 付近） 北から	SH13 完掘 南から
2 区 南壁土層断面（SH14 付近） 北から	SH13 北壁焼土 東から
2 区 南壁土層断面（SH13 付近） 北から	SH13 東西断面（東半） 北から
3 区 北壁土層断面（SH04 付近） 南から	SH14 床面 南から
3 区 北壁土層断面（東端） 南から	SH14 土器出土状況 南から
図版 9	SH14 焼土 西から
3 区 南壁土層断面（SH01 東半付近） 北から	SH15 完掘 東から
3 区 南壁土層断面（SH01 中央付近） 北から	国版 16
4 区 北壁土層断面（SH07 付近） 南から	SH13-14-15 断面 北から
4 区 北壁土層断面（東端） 南から	SX16 完掘 東から
7 区 南壁土層断面（東半） 北から	SX16 断面 東から
7 区 南壁土層断面（西半） 北から	SX16 瓦付近焼土 東から
8 区 南壁土層断面（東半） 北から	SX16 土器出土状況 南東から
8 区 南壁土層断面（西半） 北から	SB01 完掘 西から
図版 10	SB02 完掘 東から
SH01 完掘 南から	SB03 完掘 東から
SH01 煙道断面 南から	国版 17
SH01 瓦部分 東から	SB04 完掘 北から
SH01 瓦部分 東から	SK03 瓦出土状況 南から
SH01 土器出土状況 南から	SK03 断面 南西から
SH02・SD02 完掘 南から	SK10 断面 南から
SH02 南北断面（北半） 西から	SK11 完掘 南から
SH02 瓦焼土出土状況 南から	SK11 断面 東から
国版 11	SK13 完掘 南東から
SH02 瓦完掘 南から	SK13 土器出土状況 東から
SH02 土器出土状況 北から	国版 18
SH03 完掘 西から	SK14 完掘 西から
SH03 断面 南西から	SK20 瓦出土状況 南から
SH04（東半） 完掘 東から	SK20 断面 北西から
SH04（東半） 断面 西から	SK21 断面 西から
SH04（西半） 完掘 南から	SK22 断面 南東から
SH05 床面検出 北から	SD01 完掘 南から
国版 12	SD01 断面 南から
SH05 断面 東から	SD02 断面 北から
SH06 瓦袖部瓦出土状況 南から	国版 19
SH06 床面検出状況 南から	SD14 断面 東から
SH06 断面 北から	SD15 断面 南から
SH06-SP130 断面 北から	SD17 断面 西から
SH06-SP131 断面 北から	SD19 断面 南から
SH08 完掘 南から	SX02 完掘 南から
SH08 完掘 東から	SX02 断面 南東から
国版 13	SX05 完掘 東から
SH08 北壁炭・焼土出土状況 南から	SX05 断面 東から
SH09 完掘 東から	国版 20
SH09 完掘 南東から	SX10 瓦から
SH09 断面 南東から	SP136 土器出土状況 南から
SH09 北壁焼土検出 南から	SK24 瓦・土器出土状況 東から
SH10 断面 東から	SK24 土器出土状況 南から
SH11 瓦完掘 南から	SK24 断面 南から
SH11・13 完掘 南から	SK24 完掘 北から
国版 14	SK01 断面 東から
SH11 壁溝検出 西から	SK06 完掘 南から
SH11 煙道部検出 北から	

図版 21

SK06 断面 北から

SK12 完掘 南から

SK12 断面 南東から

図版 22 ~ 30

出土土器

図版 31

出土金属器

付図

付図 多肥北原遺跡 遺構配置図 (1 : 150)

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

県道太田上町志度線道路改築事業に伴い、香川県教育委員会では平成19年10月に試掘調査を実施した。調査の結果、調査地対象のうち1,052m²で、古代の柱穴及び土器を確認したため、多肥北原遺跡（今回報告の東半部）として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。また、平成19年度試掘調査対象地の西側は、多肥北原遺跡の本発掘調査中であった平成21年9月に試掘調査が実施され、古墳時代後期以降の遺構や須恵器が確認されたため、1,034m²について文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。

第2節 調査の経過

発掘調査は、平成21年8月1日から平成22年1月31日までの予定であったが、道路工事との調整で、一部期間発掘調査ができなくなり、その間は、当遺跡の調査終了後に予定していた多肥北原西遺跡の調査を実施した。このため、調査終了は平成22年3月31日となった。調査対象面積2,086m²、出土遺物33箱（28リットル入り）である。

整理作業は、平成23年8月1日から同10月31日まで実施した。



第1図 遺跡位置図

第3節 調査体制・整理体制

発掘調査及び整理作業の体制は、次のとおりである。

第1表 平成21年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	泰山 浩康	所長	大山 眞充
課長補佐（総括）	武井 嘉紀	次長	深谷 右
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	香西 としみ	総務課長	深谷 右
主任	林 照代	副主幹	林 文夫
文化財グループ		主任	宮田久美子
主幹（兼）課長補佐	藤好 史郎	主任	古市 和子
主任文化財専門員	森 格也	主任	広瀬 健一
文化財専門員	小野 秀幸	主任	安藤 正
調査課		調査課	
		調査課長	西岡 達哉
		文化財専門員	山下 平重
		文化財専門員	藤本 晋司
		嘱託（土木）	砂川 哲夫
		嘱託（調査技術員）	今井千佳子

第2表 平成23年度整理作業体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	英井 宏秋	所長	藤好 史郎
課長補佐（総括）	亀山 隆	次長	真鍋 正彦
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	香西 としみ	総務課長	真鍋 正彦
主任主事	丸山 千晶	副主幹	林 文夫
文化財グループ		主任	古市 和子
課長補佐	西岡 達哉	主任	中川 美江
主任文化財専門員	森下 英治	主任	高木 秀哉
文化財専門員	松本 和彦	主任	広瀬 健一
資料普及課		資料普及課	
		資料普及課長	森 格也
		文化財専門員	山下 平重

発掘作業に携わった方々は、次のとおりである。

調査補助員 東原 輝明

整理作業員 徳永 貴美

発掘作業員 池田 清敏 糸目八重子 稲垣 啓子 大西 行一 金本 勝行

菊池 寿章 常包 義男 中川 恒夫 中村 芳子 橋元 美和 百歩 静子

宮地恵美子 本井 俊彦 八木 和子 山田 勝富 和田 悅子

整理作業に携わった方々は、次のとおりである。

今井 真紀 岡崎江伊子 香川 和子 川井 佐織 北濱 敦子

香西 栄理 合田 安里 竹内 悅子 徳永 貴美 鳥谷真紀子

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

今回調査を行った多肥北原遺跡は、南から北へ若干傾斜する平地に立地する。標高は24.5～26mである。東側隣接地の多肥平塚遺跡西端では旧河川跡が確認されており、この影響か、当遺跡では明瞭な方格地割は認められない。

第2節 歴史的環境

当遺跡の東側にある県立高松桜井高校付近では、ここ20年以内の発掘調査で、遺跡の存在が次第に明らかとなってきた。当遺跡の付近では、古代寺院多肥廃寺を除き、2007年度から開始した県道太田上町度線に伴う発掘調査によってようやく遺跡が知られてきた。以下、時期ごとに遺跡を紹介する。

縄文時代晚期から弥生時代前期の遺跡としては、多肥宮尻遺跡から縄文時代晚期の土器や弥生時代前期の木製鋤が出土している。やや北に離れた位置にある汲仏遺跡は、弥生時代前期の環濠集落である。弥生時代中期後半～後期前半には、多肥松林遺跡を中心に集落跡が検出されている。凹原遺跡では弥生時代終末の集落が見つかっている。なお空港跡地遺跡においても弥生時代前期の遺構や後期の集落が見られる。

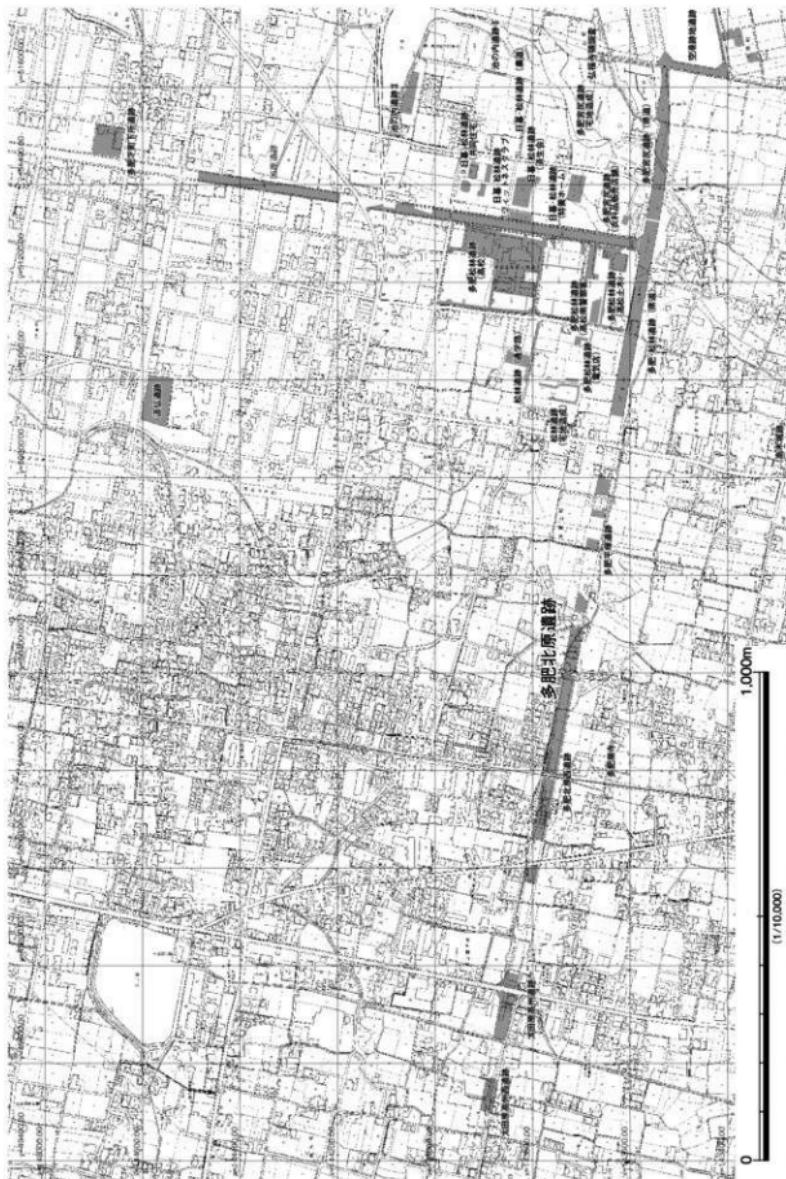
古墳時代中期には、空港跡地遺跡の西端で、竪穴建物を含む集落跡が見つかっている。多肥宮尻遺跡では、当時期の須恵器が出土する河川の祭祀跡と考えられる遺構が見つかっている。当時期の集落がこのあたりに広がる可能性がある。

7世紀から平安時代の遺跡としては、多肥廃寺が知られていたが、今回の発掘調査で当時期の竪穴建物や掘立柱建物が多数確認された。当時期の遺構は西側の多肥北原西遺跡と太田原高州遺跡でも確認されている。東西900mにわたり、当時期の遺跡が展開することになる。なお、遺構ではないが、多肥北原西遺跡では10～11世紀頃の大地震に伴う墳礎が確認された。墳礎については、弥生時代中期のものが松林遺跡で知られている。

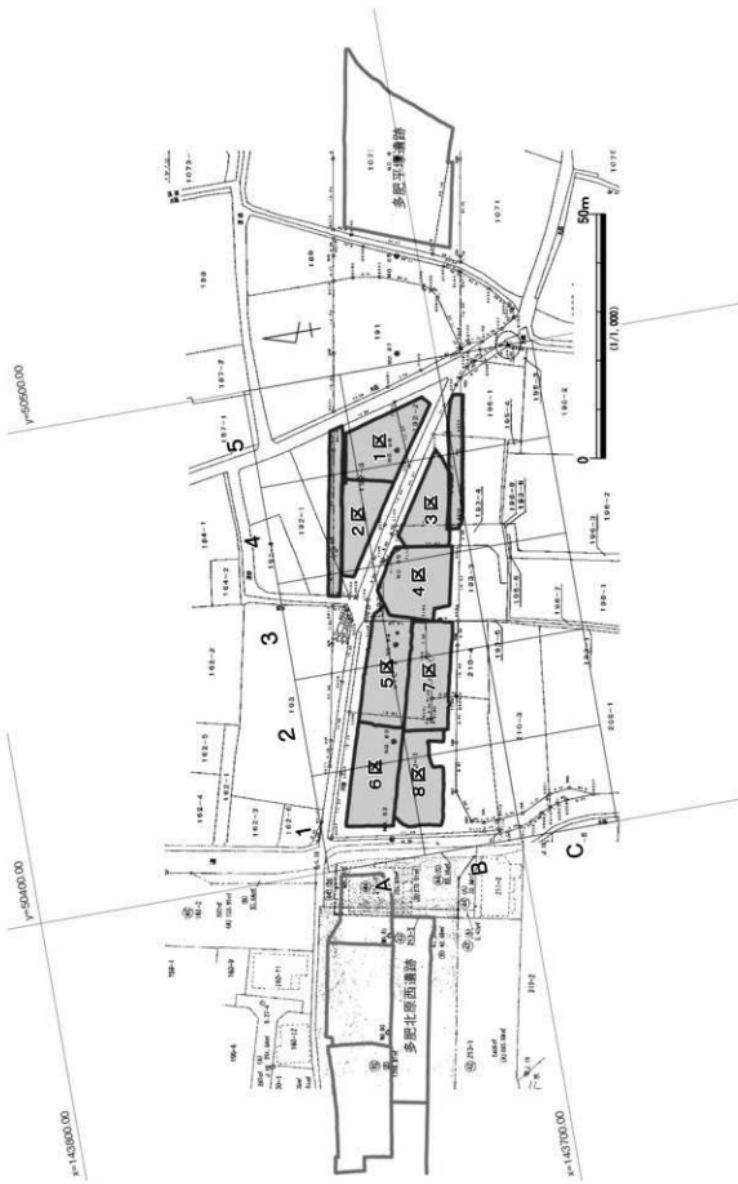
中世の遺跡としては、空港跡地遺跡が知られている。また、当遺跡東に隣接する多肥平塚遺跡からは鎌倉時代頃と考えられる掘立柱建物が確認されている。

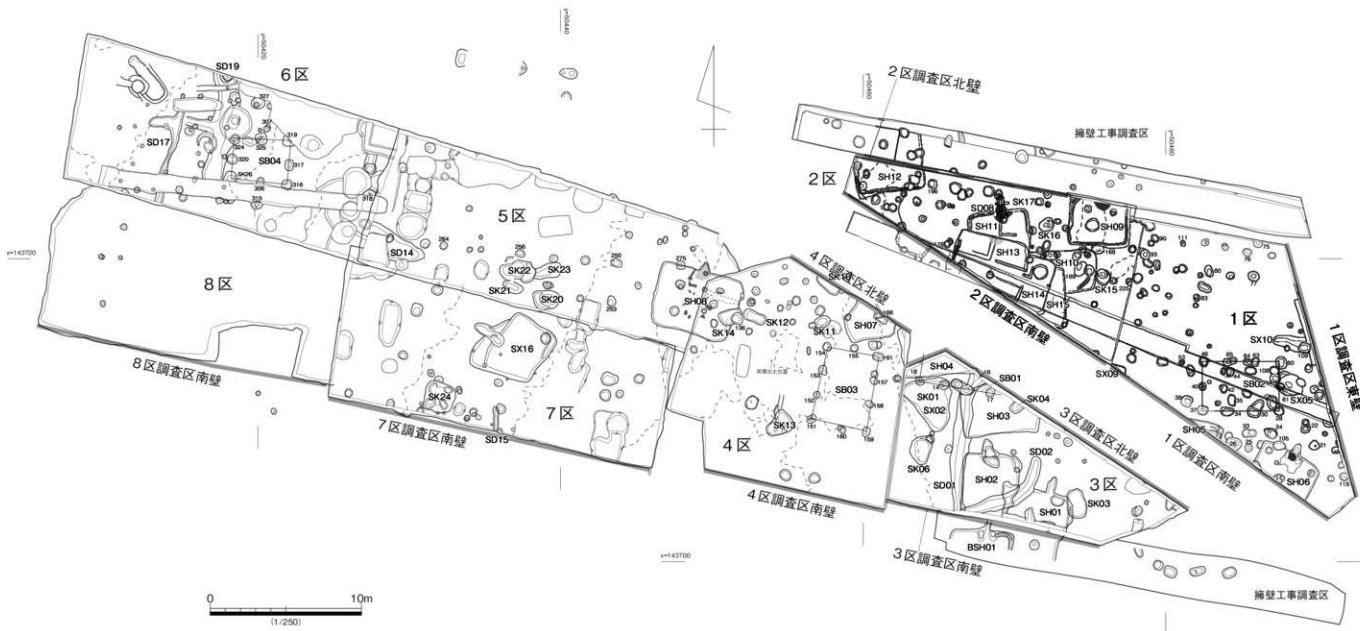
近世の遺跡としては、高木城跡の存在が考えられている。

第2図 周辺の道路



第3回 調査区割図





第4図 遺構配置図

第3章 調査の成果

第1節 調査区の概要と層序

調査地は、現状が水田及び宅地跡であり、ほぼ中央に道路がある。道路及び土地区画に合わせて、調査区1～8区を設定した（第3図）。

1、2区は現状が水田で、耕作土下に遺物を多量に含む包含層（厚さ約10cm）がある。ところどころに基盤層の礫の盛り上がりが見られ、遺物包含層がこの間に堆積するような状況も見られる。

3区は宅地跡であるが、旧水田層が残っている。1、2区と同様厚さ10cm程度の包含層がある。

4区は、現状は水田であった。北部に遺物包含層があるが、南部は耕作土直下基盤層となっており、東半の基盤層は円礫層となっている。

5、6、7区は、基盤層が円礫の部分とシルトの部分が入り混じっており、包含層はほとんど見られなくなる。8区は搅乱が深くまで及んでおり、基盤層は細砂層となっている。

第2節 遺構と遺物

1 7世紀～奈良時代

堅穴建物

S H O 1 (B4) (第10図)

平面形が方形の竈付堅穴建物である。SD02、SD03、SK03より古い。SHO2との関係は不明である。竈部分には、完形の壺3が置かれていた。竈の袖、壁溝、主柱穴いずれも検出できなかった。出土遺物は、1は須恵器である。2・3は土師器である。ほかの建物跡と同じくTK217型式の時期と考えられる。

S H O 2 (B4) (第11図)

平面形が方形の竈付の堅穴建物である。SD02より古い。SHO1との新旧関係は不明である。主柱穴、壁溝は検出できなかった。竈は袖がわずかに残存していた。SK08は竈前面の浅いくぼみと考えられる。出土遺物は、4は完形の須恵器である。5は竈内及び竈前面から出土した土師器である。

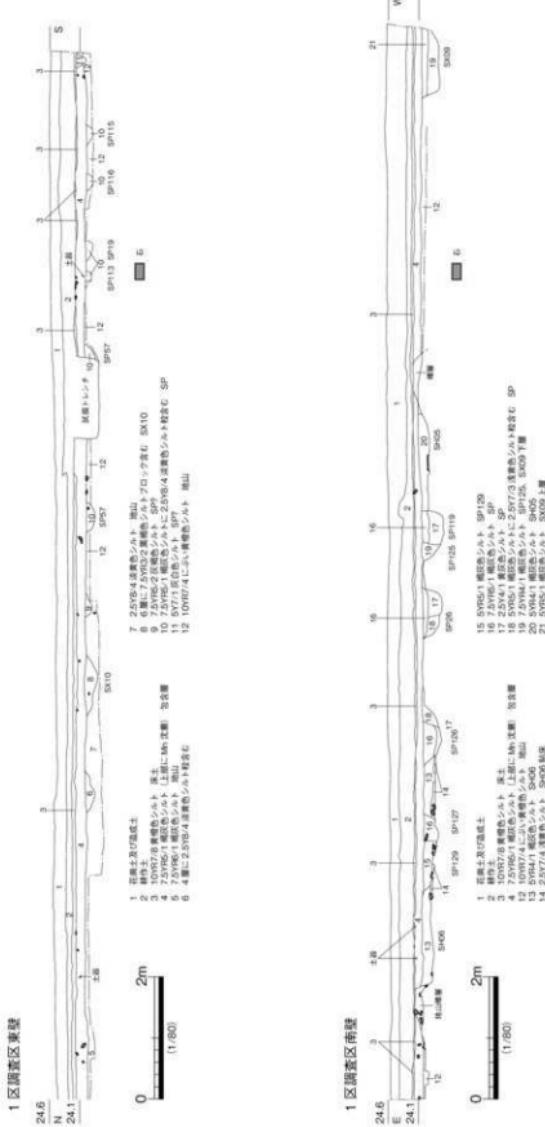
S H O 3 (B4) (第12図)

平面形が方形の堅穴建物と考えられる。SD01より新しく、SK04より古い。北辺は調査範囲外にあるため、竈があるかどうかは不明である。主柱穴及び壁溝は確認できなった。出土遺物は、6～9は須恵器である。10は土師器である。須恵器よりTK217型式の時期が考えられる。

S H O 4 (B4) (第13図)

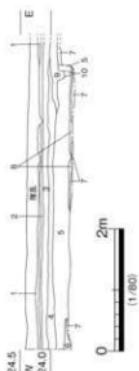
平面形が方形の堅穴建物である。南辺と西辺を検出した。壁溝及び主柱穴は確認できなった。出土遺物は、11は須恵器である。12は土師器である。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

第5図 1区調査区壁土層断面図

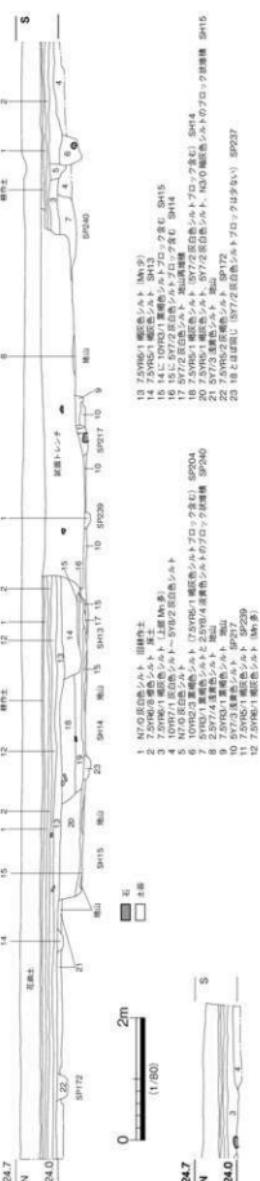


第6図 2区調査区地質断面図

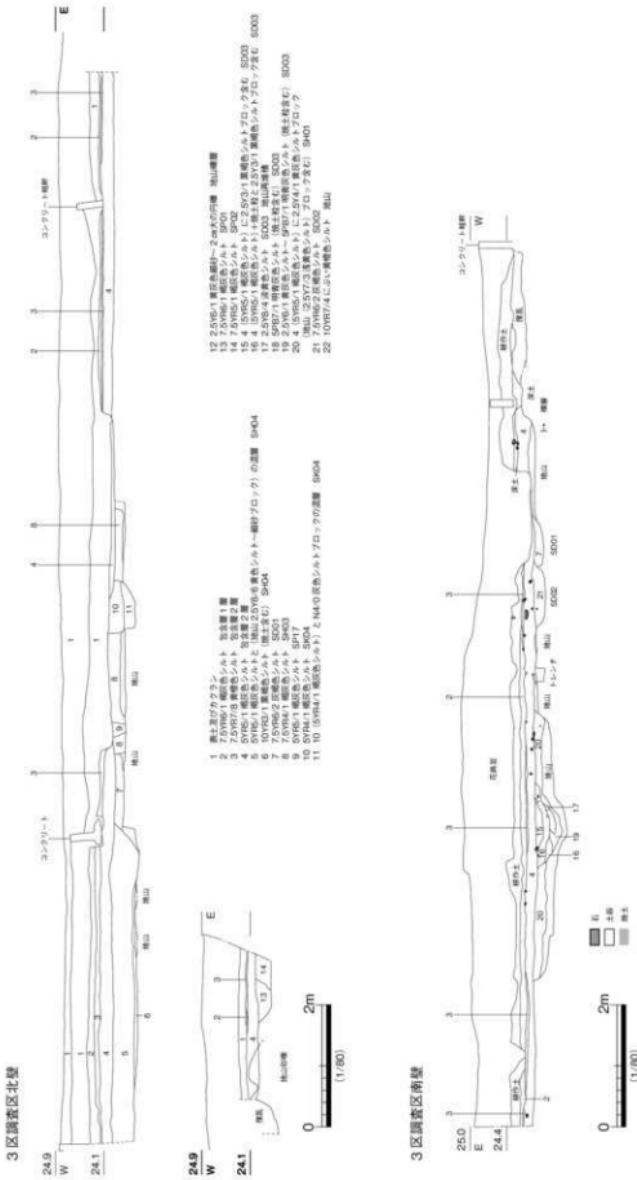
2区調査区北壁



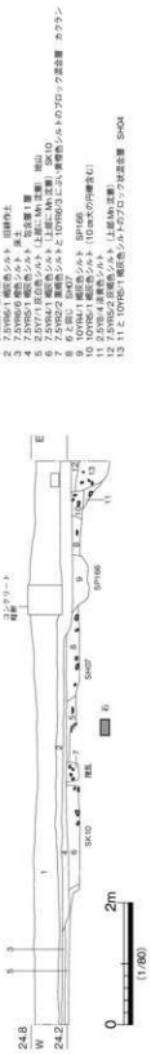
2区調査区南壁



第7回 3区調査区壁土層断面図



4区調査区北壁

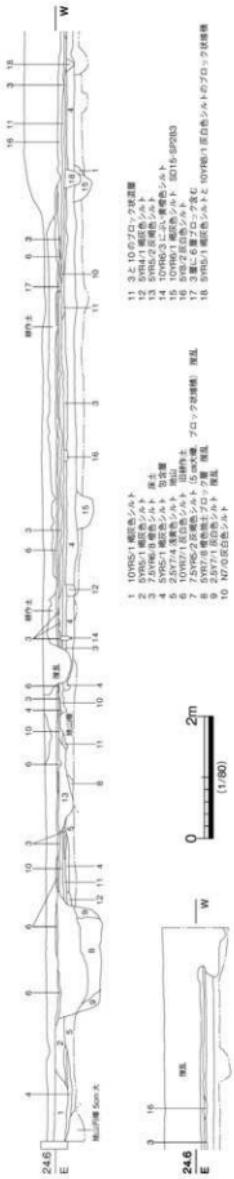


4区調査区南壁

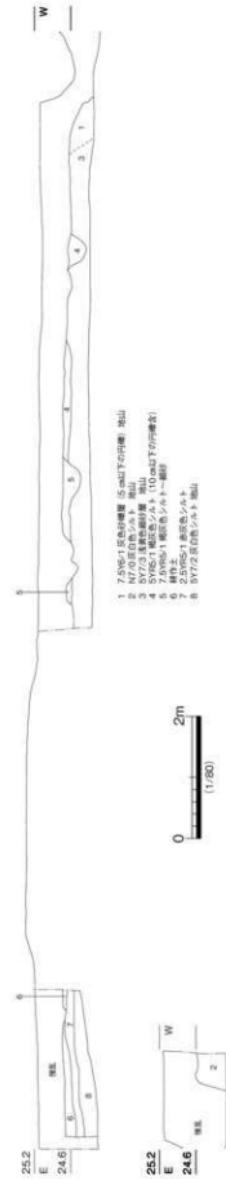


第8図 4区調査区壁土層断面図

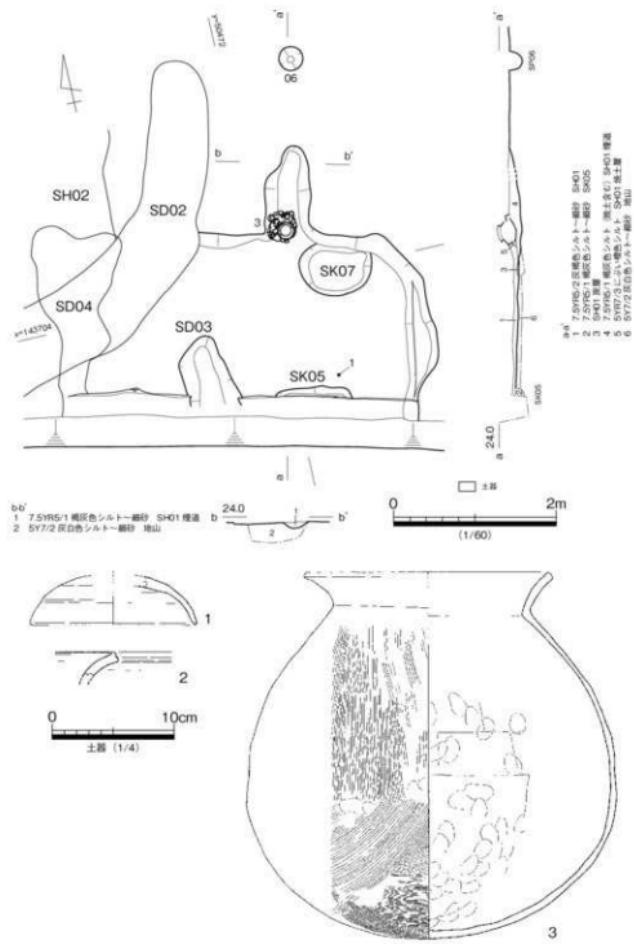
7区調査区南壁



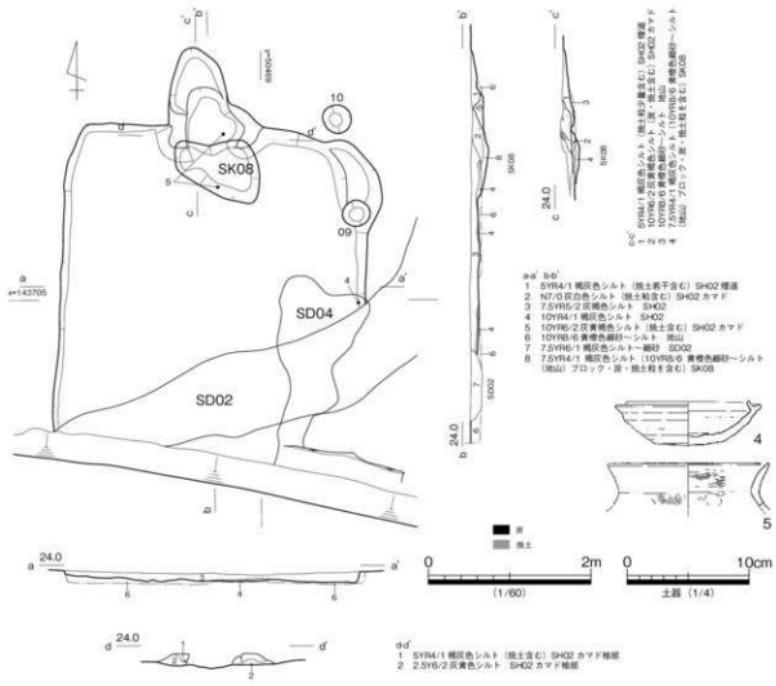
8区調査区南壁



第9図 7・8区調査区地盤断面図



第10図 SH01 平・断面図、出土遺物



S H O 5 (B5) (第 14 図)

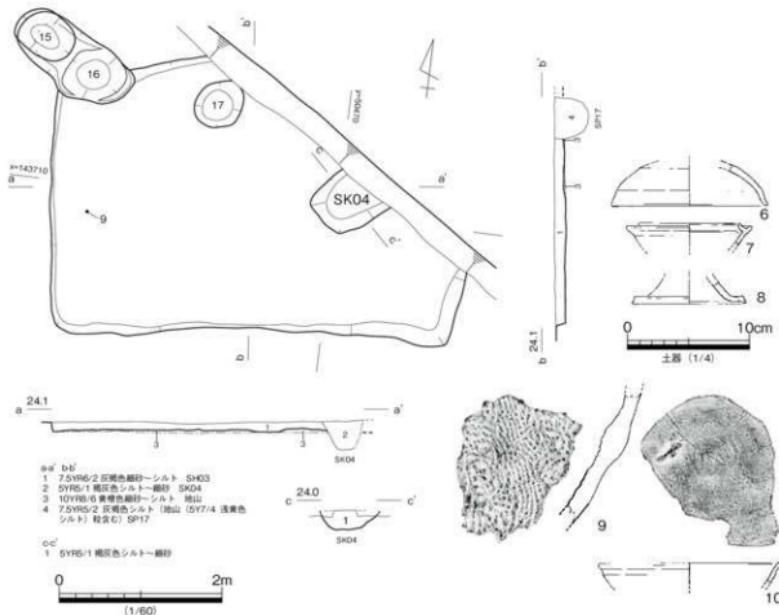
平面形が方形の建物の一部を検出した。壁溝の一部を検出した。実測可能な遺物は出土していない。

S H O 6 (B5) (第 15 図)

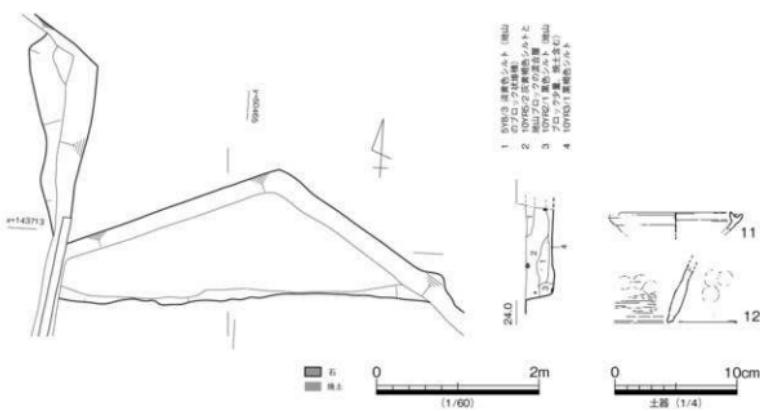
平面形が方形の建物の北半分を検出した。竈及び主柱穴 2 を検出した。竈袖はわずかに残存しているに過ぎない。出土遺物は、13 ~ 18 は須恵器である。19 は製塙土器である。須恵器から TK217 型式以降の時期が考えられる。

S H O 7 (B3,B4) (第 16 図)

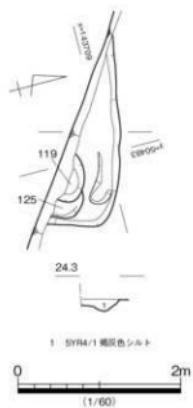
やや不定形であるが、竪穴建物の可能性がある。内部施設は確認できなかった。須恵器 20 が出土している。



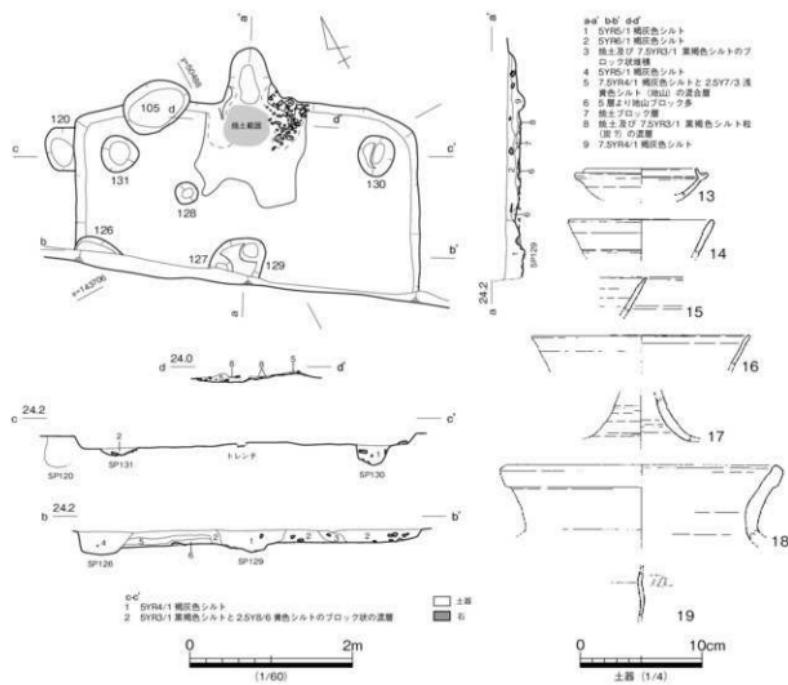
第12図 SH03 平・断面図、出土遺物



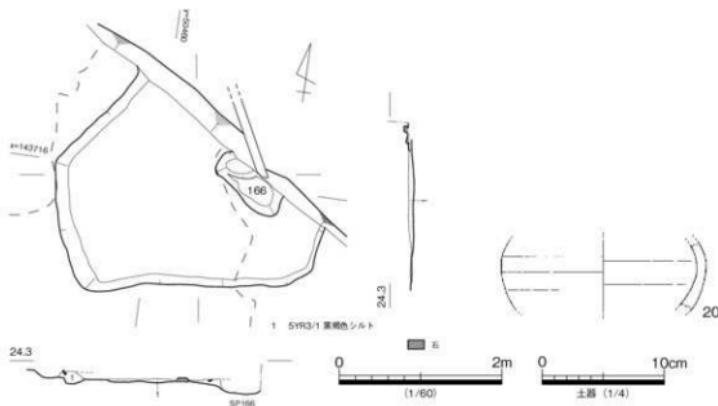
第13図 SH04 平・断面図、出土遺物



第14図 SH05 平・断面図



第15図 SH06 平・断面図、出土遺物



第16図 SH07 平・断面図、出土遺物

S H O 8 (B3) (第17図)

平面形が方形の竪穴建物である。竪及び4主柱穴を確認した。竪の袖は確認できなかった。出土遺物は、21・22は須恵器である。21は床面から出土した。23は赤彩のある土師器である。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

S H O 9 (A4) (第18図)

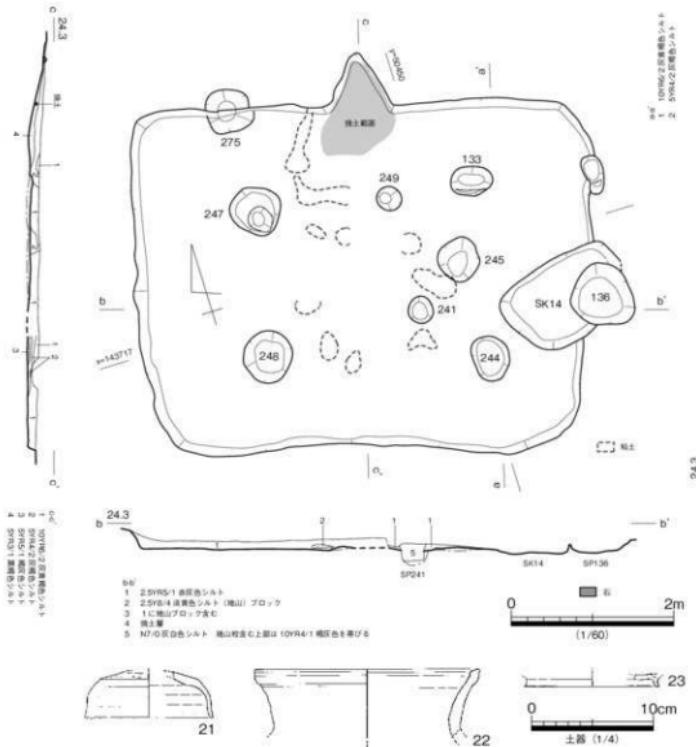
平面形が方形の建物である。北壁は検出できていないが、北壁付近の床面に焼土の広がりがみられることから、竪があるものと考えられる。壁溝を検出した。主柱穴らしきものがあるが、いずれも浅いため、疑問が残る。出土遺物は、24～33は須恵器である。34～37は土師器である。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

S H 1 0 (A4,B4) (第19図)

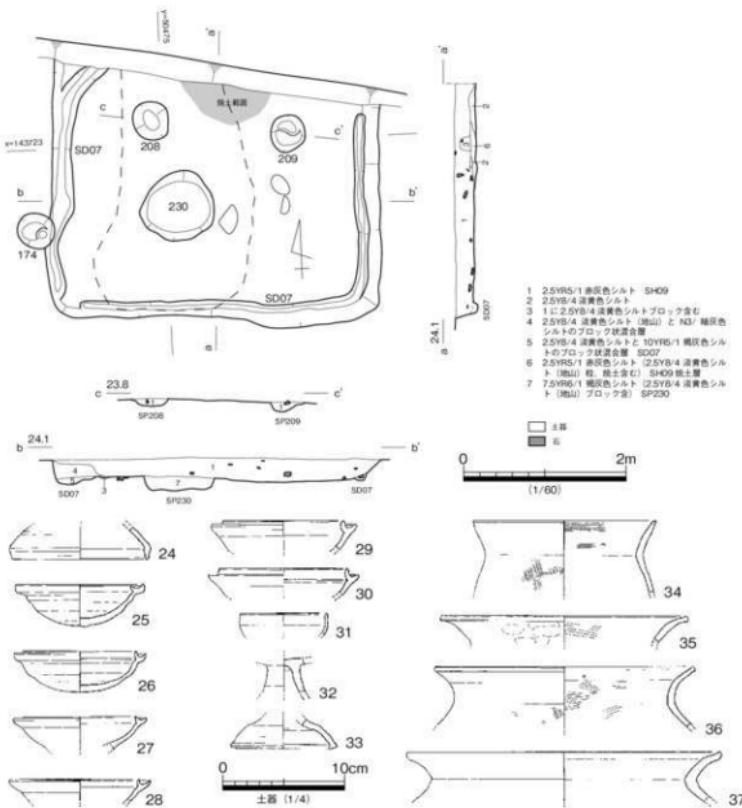
浅い平面形が方形の遺構である。竪穴建物かどうかは疑問が残る。出土遺物は、38・39は須恵器である。

S H 1 1 (A4) (第20図)

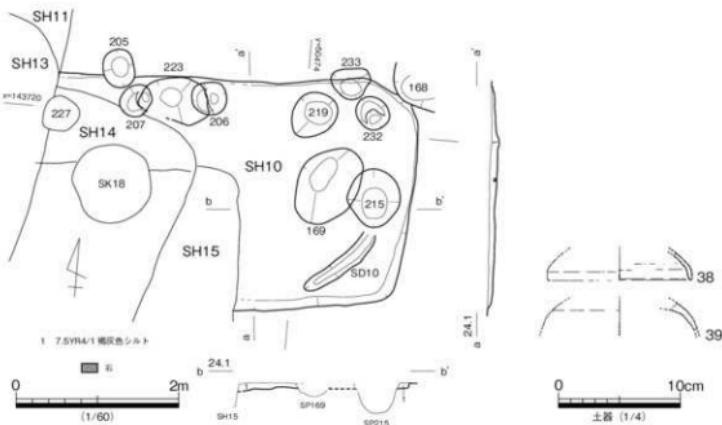
平面形が方形の竪付き竪穴建物である。SH13より古い。煙道の残りが良く、トンネル状になっている。土層からは、一度溝状に掘られたものを埋め戻してトンネル状に仕上げたものと考えられる。壁溝を確認したが、主柱穴は確認できなかった。40は煙道から出土した須恵器である。41は竪から出土した土師器である。42は壁溝から出土した須恵器である。43～47は埋土から出土した須恵器である。48～52は埋土から出土した土師器である。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。



第17図 SH08 平・断面図、出土遺物



第18図 SH09 平・断面図、出土遺物



第19図 SH10 平・断面図、出土遺物

S H 1 2 (A3,A4) (第 21 図)

平面形が方形の堅穴建物である。道路擁壁工事に伴う調査時に、東壁の延長部分を確認している。壁溝を検出したが、主柱穴は確認できなかった。出土遺物は、53～55は須恵器である。56は土師器である。

S H 1 3 (A4,B4) (第 22・23 図)

平面形が方形の堅穴建物である。SH11及びSH14より新しい。竈は検出できなかったが、北壁に焼土の広がりが認められた。一部壁溝を確認したが、主柱穴は確認できなかった。出土遺物は、57～61は須恵器である。62は土師器である。須恵器からTK217型式以降の時期が考えられる。

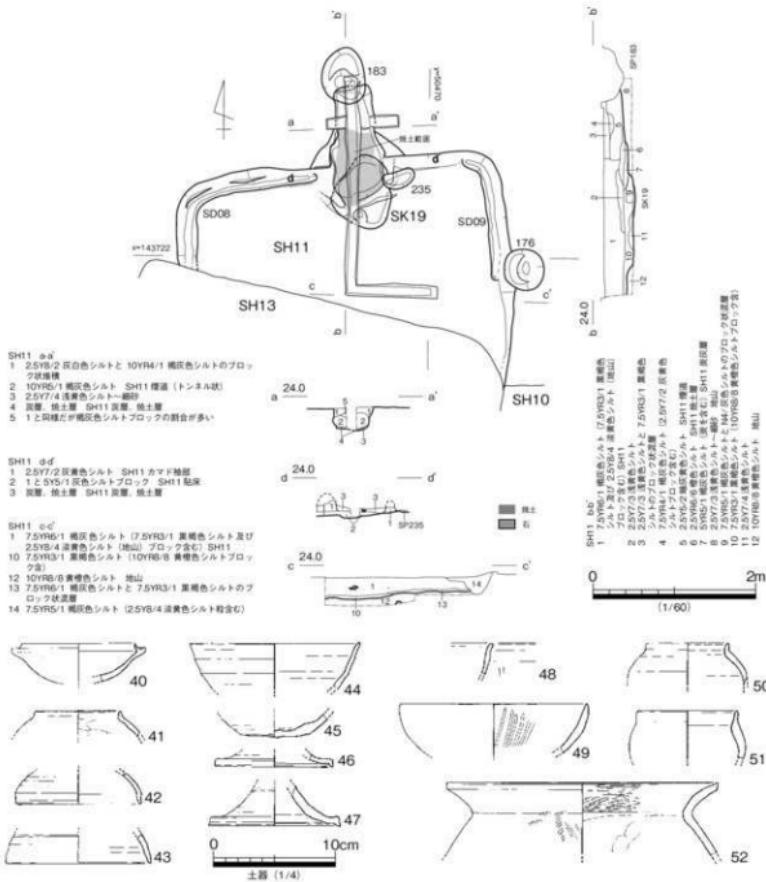
S H 1 4 (A4,B4) (第 22・23 図)

平面形が方形の堅穴建物である。SH13より古く、SH15より新しい。SH13との境界付近の北壁付近に焼土及び炭の広がりがあり、ここに竈があったと考えられる。主柱穴及び壁溝は明確ではない。63は床面で出土した須恵器である。64は床面付近で出土した土師器である。65は埋土から出土した土師器である。66～69は埋土から出土した須恵器である。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

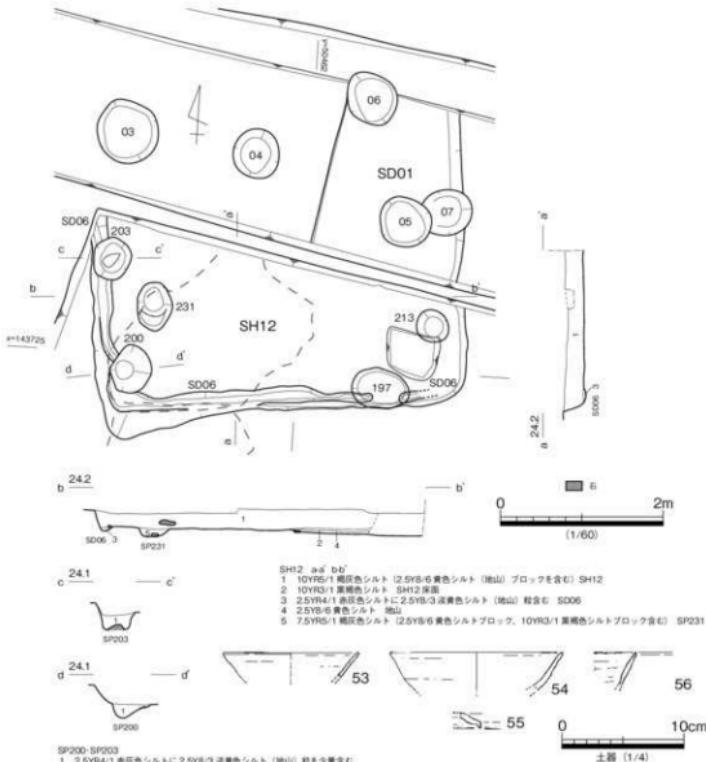
S H 1 5 (A4,B4) (第 22・23 図)

平面形が方形の堅穴建物である。SH14より古い。壁溝を検出したが、竈及び主柱穴は確認できなかった。出土遺物は、70・71は須恵器である。

なお、須恵器72～74は、SH13、14、15の検出時に一つの遺構として考えていた段階に取り上げた遺物で、SH13、14、15のいずれに帰属するかは明らかではない。



第20図 SH11 平・断面図、出土遺物



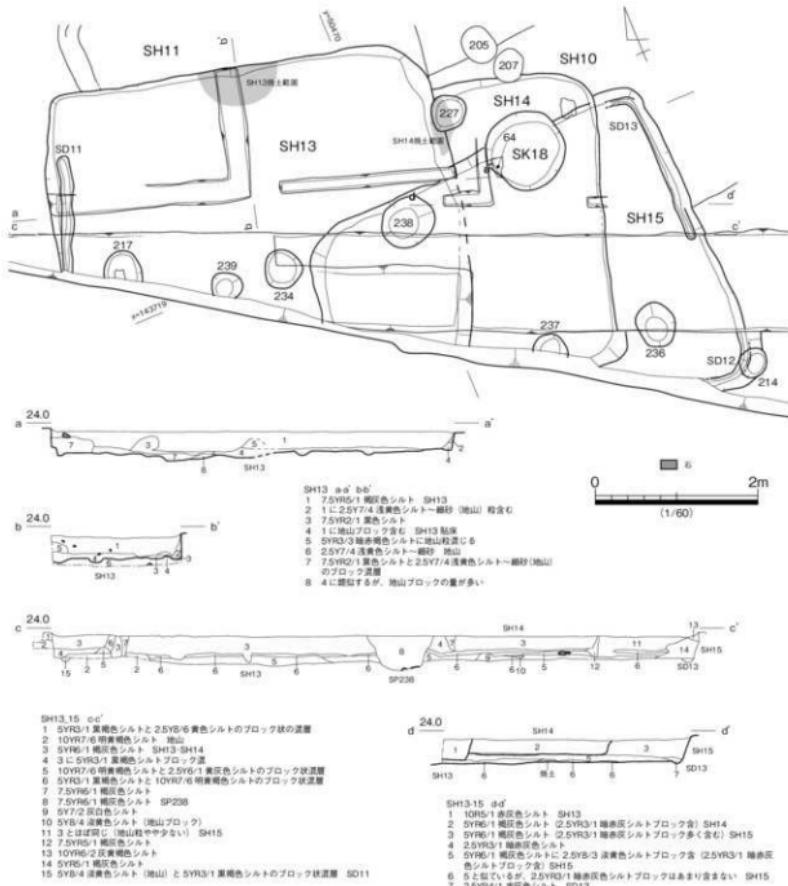
第21図 SH12平・断面図、出土遺物

S X 1 6 (B2) (第 24 図)

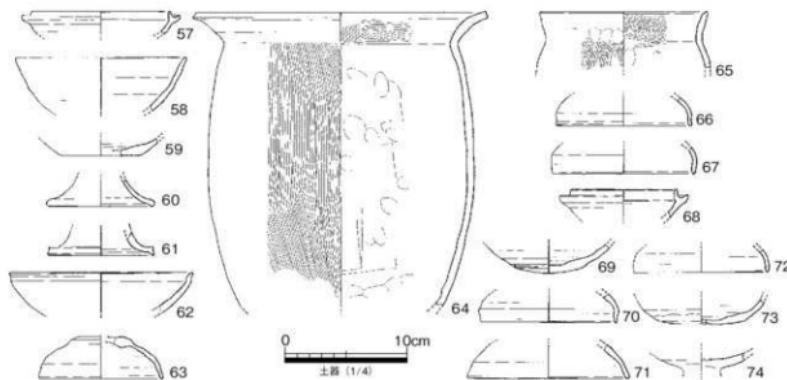
平面形が方形の竪穴建物である。当遺跡で唯一西壁に竈を持つ。主柱穴及び壁構は確認できなかつた。出土遺物は、75・76は須恵器である。77・78は土師器である。79は鎌と考えられる。須恵器からTK217型式の時期が考えられる。

B S H 0 1 (B4) (第 25 図)

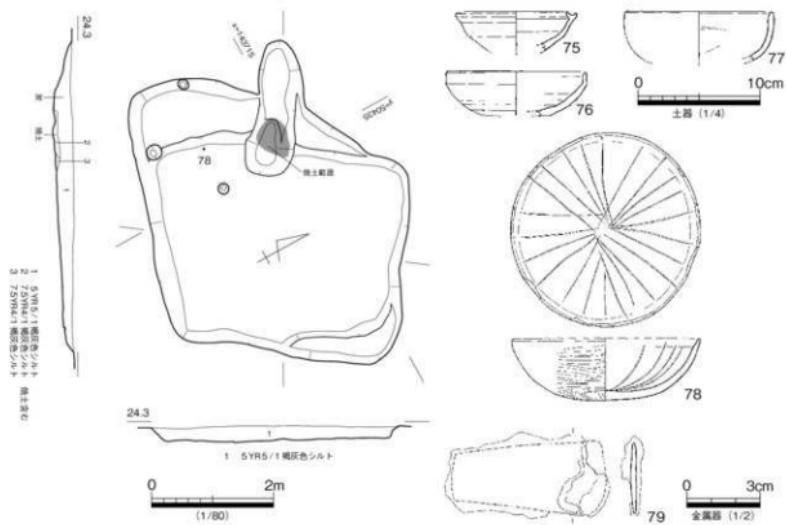
生涯学習・文化財課が実施した擁壁工事に伴う発掘調査時に検出した。平面形が方形の竪穴建物である。壁溝を検出している。完形の須恵器 80 が、壁溝から出土している。TK217 型式の時期が考えられる。



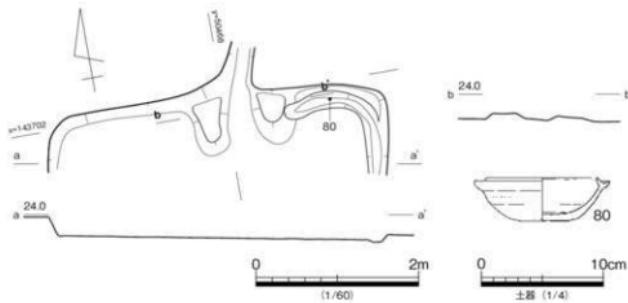
第22図 SH13~15平・断面図



第23図 SH13～15出土遺物



第24図 SX16平・断面図、出土遺物



第25図 BSH01 平・断面図、出土遺物

掘立柱建物

S B O 1 (B4) (第26図)

柱穴4穴を検出した。西側には、延長の柱穴が確認されていない。主軸方位は、N 9° Eである。S P 1 6から須恵器81が出土した。TK217型式の時期と考えられる。

S B O 2 (B5) (第27図)

規模は、2間(3.14m)×3間(5.04m)で、主軸方位は、N 90° Wである。S P 3 0から須恵器82～85、土師器86が出土した。S P 3 4からは須恵器87・88、土師器89が出土している。S P 4 0からは須恵器90が出土している。S P 6 0からは須恵器91が出土している。S P 6 5からは土師器92が出土している。須恵器91から、奈良時代前半の時期と考えられる。

S B O 3 (B3,B4) (第28図)

規模は2間(3.7m)×3間(5.0m)で、主軸方位はN12° Eである。S P 1 5 1からは須恵器93が出土している。S P 1 5 3からは須恵器94が出土している。S P 1 5 9からは須恵器95が出土している。須恵器から奈良時代半ばころの時期と考えられる。

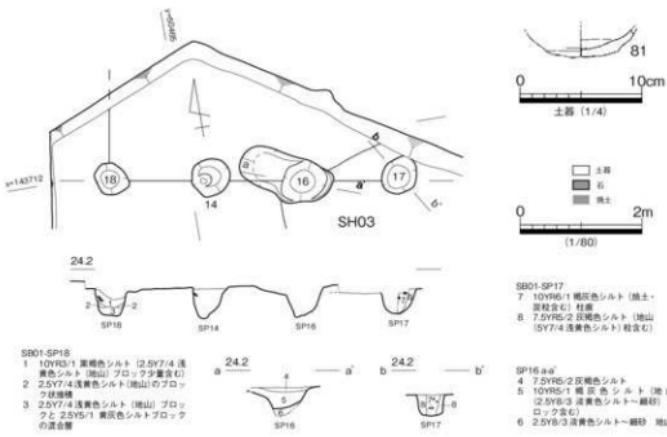
S B O 4 (A1,A2) (第29図)

規模は、2間(2.9m)×3間(3.7m)で、主軸方位は、N 5° Eである。S P 3 2 5から須恵器96が出土している。奈良時代前半頃と考えられる。

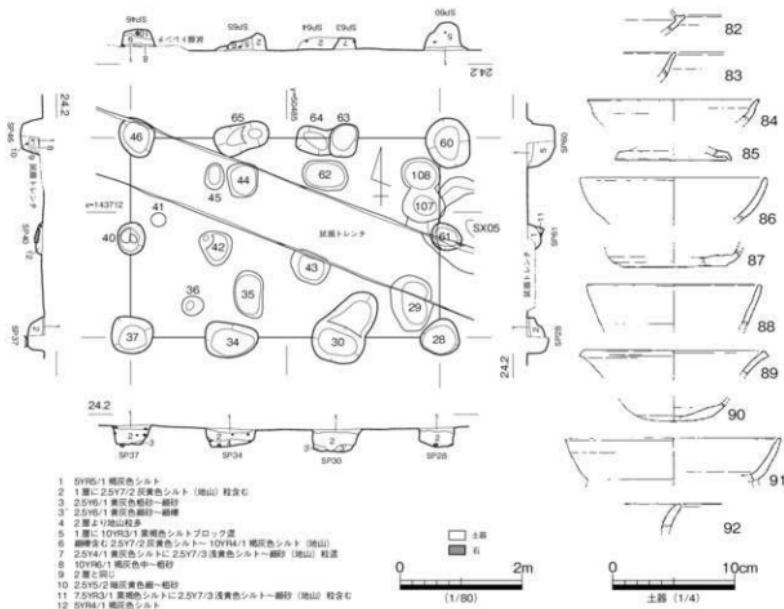
土坑

S K O 3 (B4) (第30図)

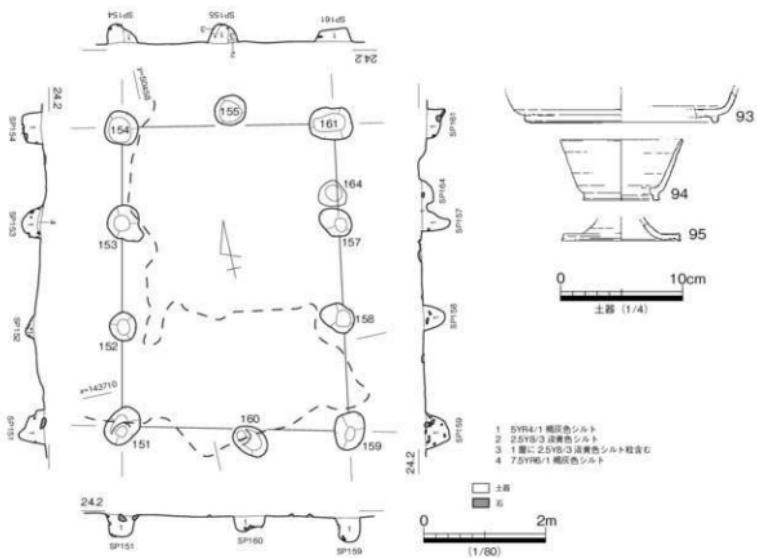
S H 0 1より新しい浅い遺構である。小砾および土器片が少量出土している。須恵器97～99が出土している。TK217型式の時期と考えられる。



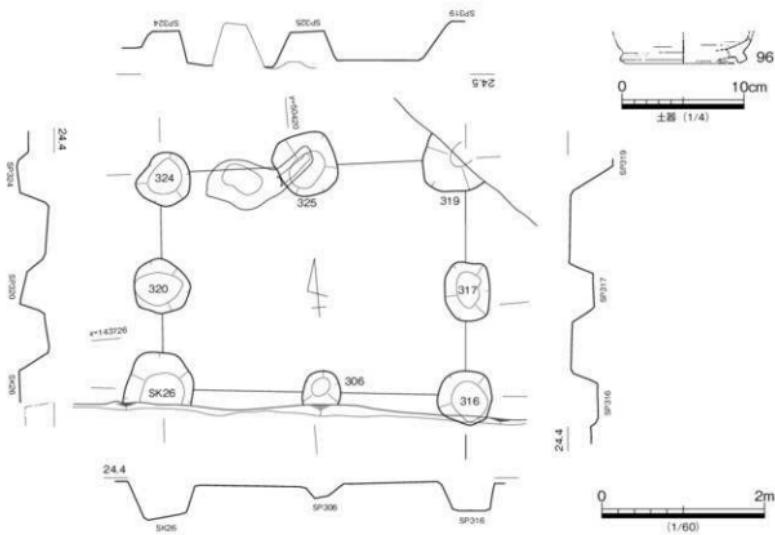
第26図 SB01 平・断面図、出土遺物



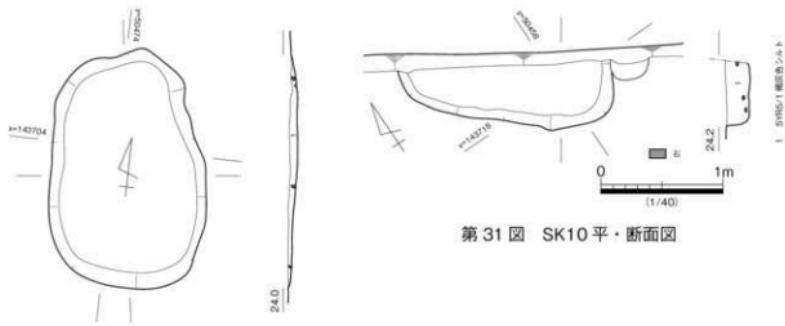
第27図 SB02 平・断面図、出土遺物



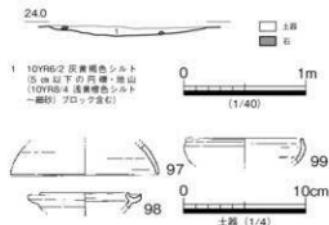
第28図 SB03 平・断面図、出土遺物



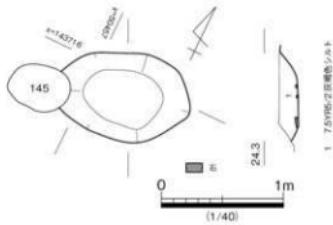
第29図 SB04 平・断面図、出土遺物



第31図 SK10 平・断面図



第30図 SK03 平・断面図、出土遺物



第32図 SK11 平・断面図

S K 1 0 (B3) (第31図)

調査壁付近で検出した。実測可能な遺物は出土していない。

S K 1 1 (B3) (第32図)

遺物は出土していない。埋土から当時期と考えられる。

S K 1 3 (B3) (第33図)

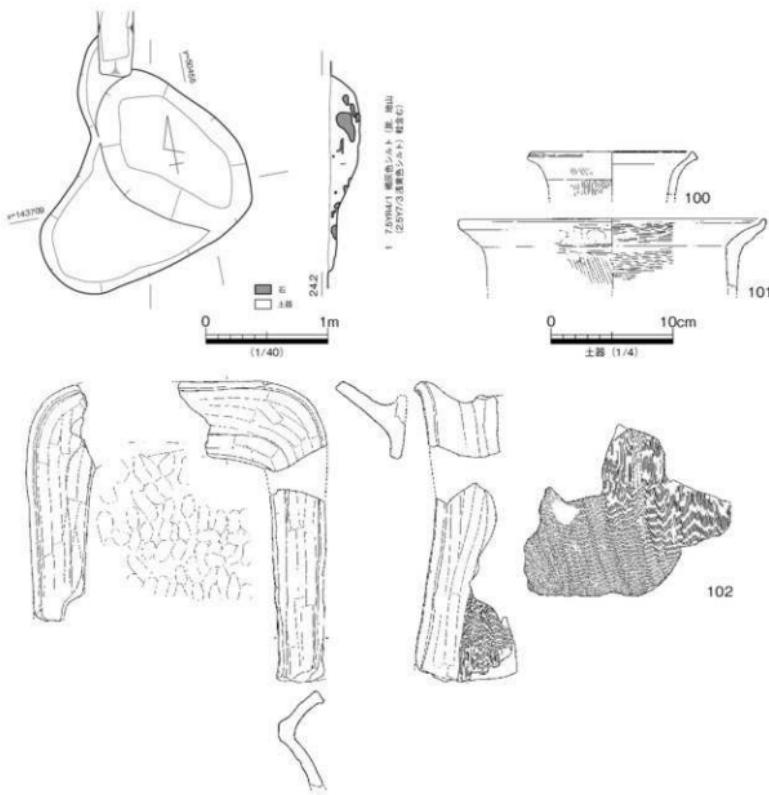
基盤層は礫を含む。埋土には人頭大以下の円礫及び土器を含む。土師器 100～102 が出土している。奈良時代頃と考えられる。

S K 1 4 (B3) (第34図)

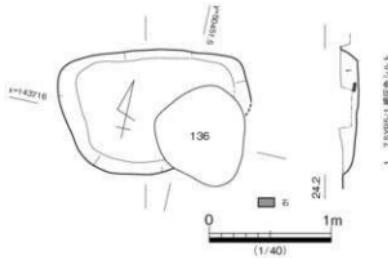
S H O 8 より新しい。実測可能な遺物は出土していない。

S K 2 0 (B2) (第35図)

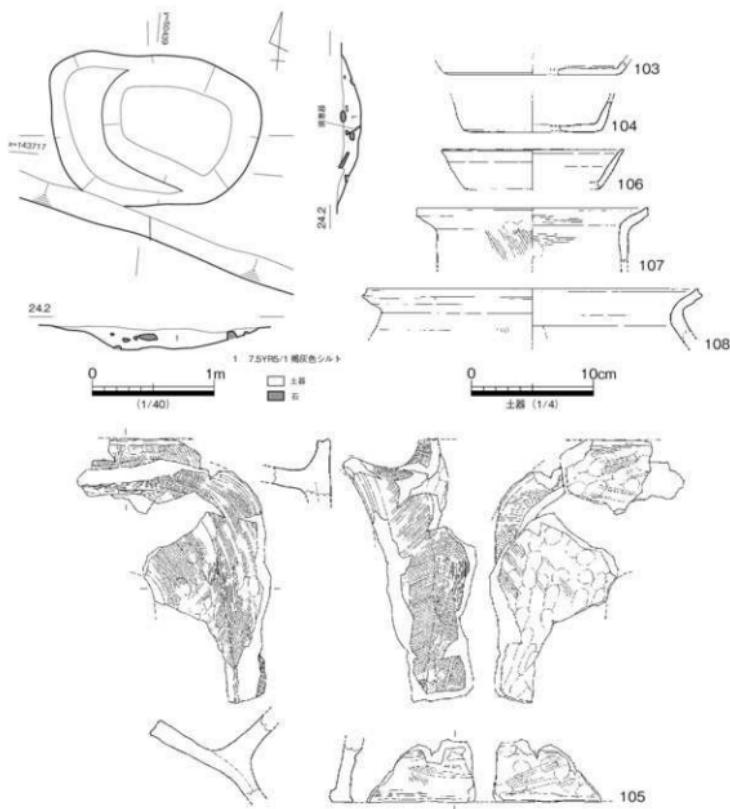
上面に人頭大以下の円礫の集積がある。礫群の中から須恵器 103・104 及び土師器 105 が出土している。礫下の埋土からは須恵器 106 及び土師器 107・108 が出土している。奈良時代頃の時期が考えられる。



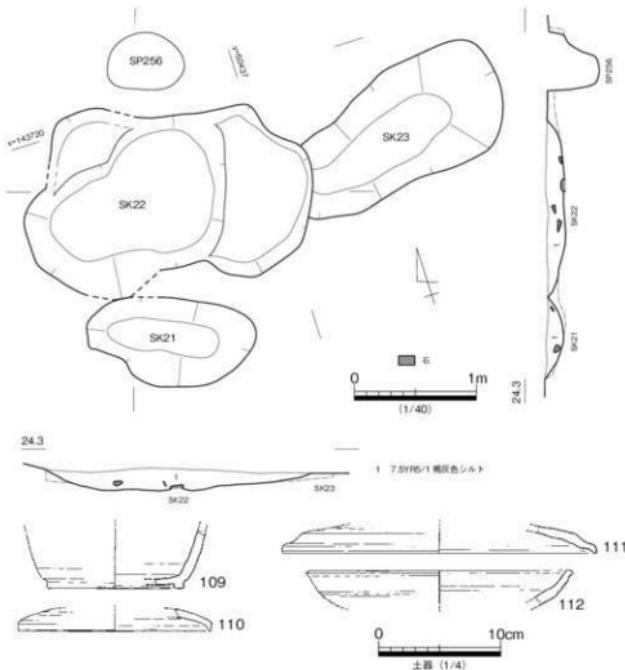
第33図 SK13 平・断面図、出土遺物



第34図 SK14 平・断面図



第35図 SK20 平・断面図、出土遺物



第36図 SK21・22 平・断面図、出土遺物

SK21・SK22 (B2) (第36図)

平面形がやや不定形の浅い土坑である。当初は、一つの遺構と考えられたが、掘り下げに従い、複数の遺構に分かれることが判明した。SK22からは須恵器109が出土している。須恵器110～112は、当初一つの遺構と考えていた時に出土した。

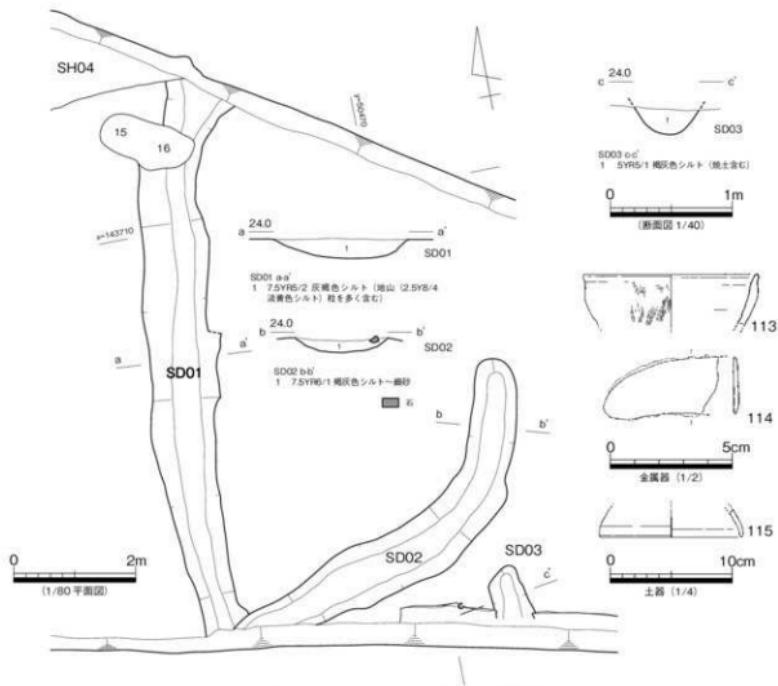
溝状遺構

S D O 1 (B4) (第37図)

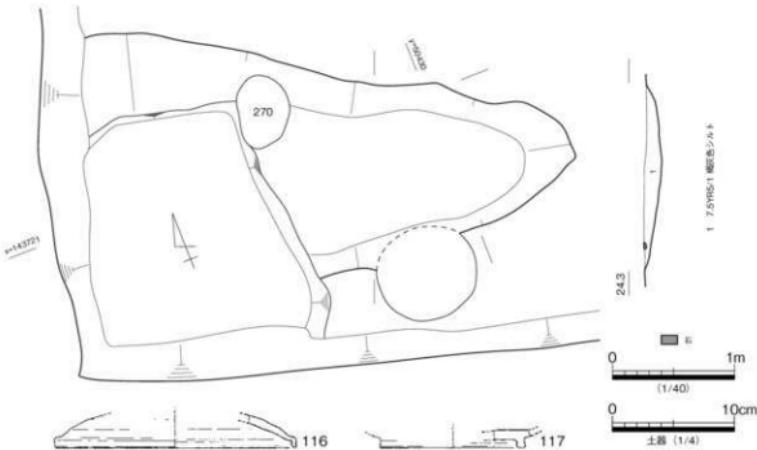
SH02、SH03、SD02より古い。埋土と基盤層の境界は不明瞭である。土師器113及び鉄鎌114が出土している。

S D O 2 (B4) (第37図)

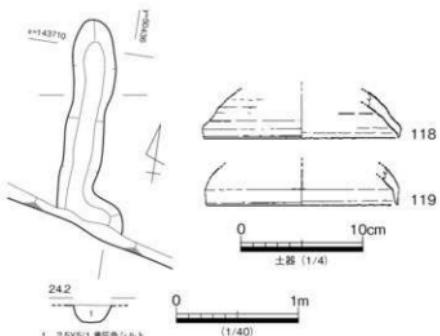
SD01、SH01、SH02より新しい。SH01及びSH02のような黒色シルトブロックは含んでいない。須恵器115が出土している。TK217型式の時期が考えられる。



第37図 SD01～03平・断面図、出土遺物



第38図 SD14平・断面図、出土遺物



第39図 SD15 平・断面図、出土遺物

第40図 SD17 出土遺物

SD14 (A2) (第38図)

浅い不定形な遺構である。東西も長くはない。須恵器 116・117 が出土している。

SD15 (B2) (第39図)

平面形がL字状を呈する溝である。須恵器 118・119 が出土している。

SD17 (A1) (第40図)

南北方向のSD16 から西へ派生する溝である。須恵器 120 が出土している。

SD19 (A1) (第41図)

南北方向の溝である。西側のSD16 と並行する。須恵器 121、土師器 122・123 が出土している。

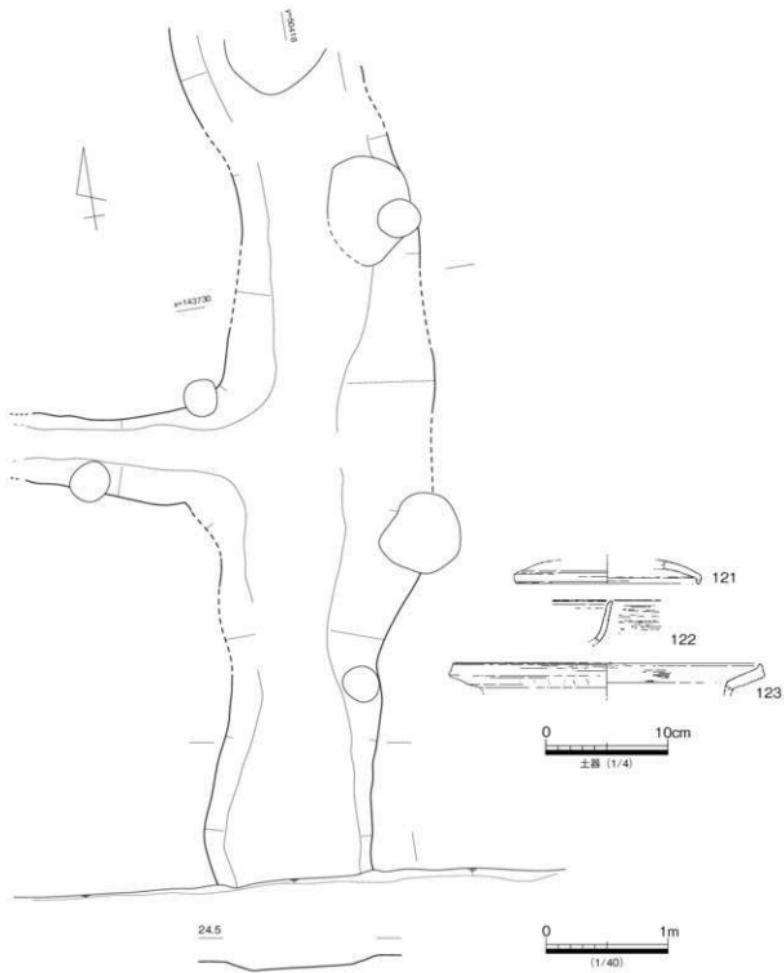
不明遺構

SX02 (B4) (第42図)

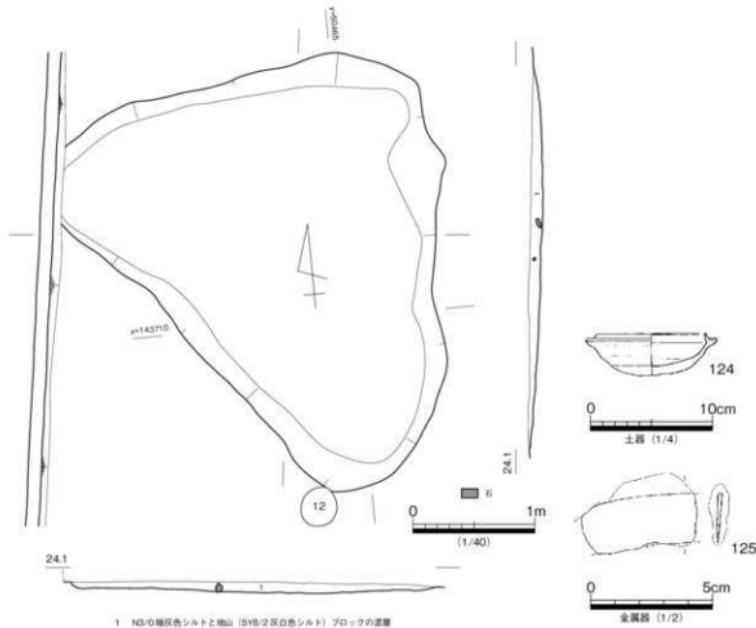
浅い不定形な遺構である。堅穴建物の残存したものの可能性もあるが、柱穴は検出できなかった。須恵器 124 及び鉄鎌 125 が出土している。須恵器から TK217 型式の時期が考えられる。

SX05 (B5) (第43図)

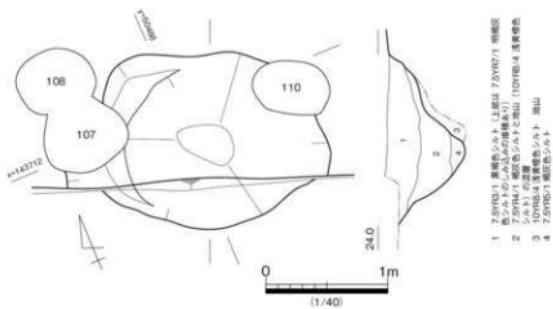
やや不定形な遺構である。下層の埋土は、基盤層に似る。実測可能な遺物は出土していない。埋土から当時期と考えられる。



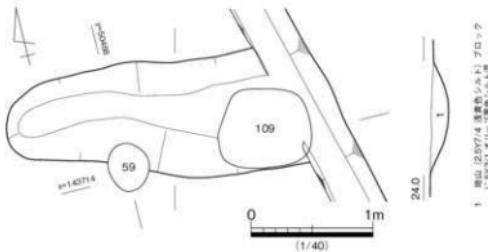
第41図 SD19 平・断面図、出土遺物



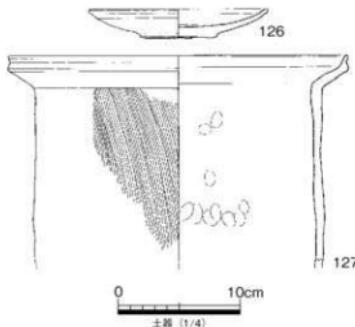
第42図 SX02 平・断面図、出土遺物



第43図 SX05 平・断面図



第44図 SX10 平・断面図



第45図 SP136 出土遺物

井戸跡

S K 2 4 (B2) (第46図)

平面形がほぼ方形で、深さは75cm程度である。底面4隅に柱穴状の掘り込みがある。底は砂礫層に達している。以上のことから、4隅に柱をもつ構造の井戸と考えられる。埋土上層からは焼土や礫が多く出土しており、礫群は環状を呈している。128は緑釉陶器である。129～140は須恵器である。141～148は土師器である。平安時代前半の時期と考えられる。

3 中世以降

S K 0 1 (B4) (第47図)

7世紀代頃の遺物包含層を切り込む遺構である。須恵器149・150が出土しているが、埋土から中世以降のものと考えられる。

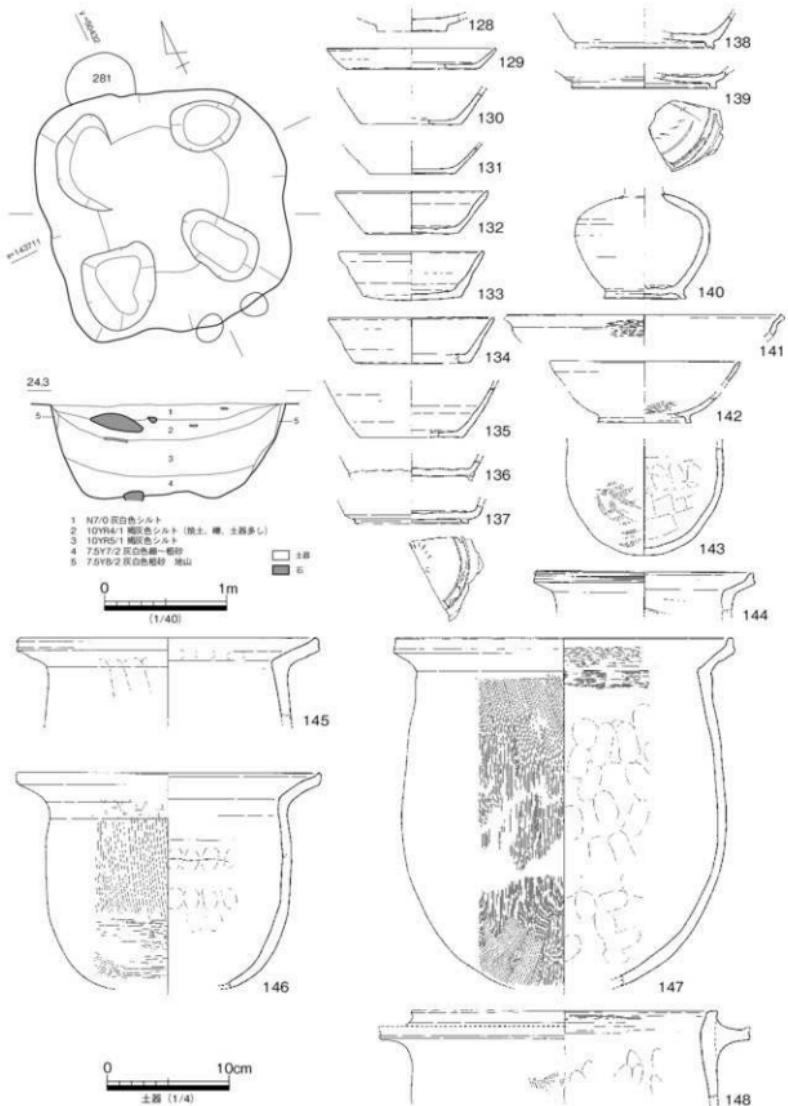
S X 1 0 (B5) (第44図)

浅い溝状の遺構である。埋土は基盤層に近い。実測可能な遺物は出土していない、埋土から当時期と考えられる。

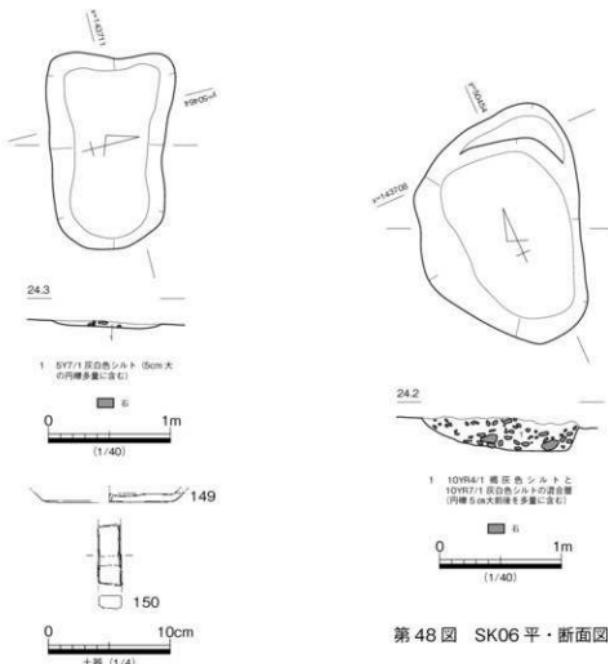
2 平安時代 土坑

S P 1 3 6 (B3) (第45図)

S K 1 4 より新しい。直径80cm、深さ15cm程度である。礫及び土器片が少量出土している。焼棄土坑と考えられる。出土遺物は、126が軟質焼成の緑釉陶器である。127は土師器である。

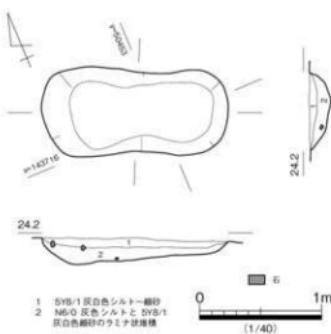


第46図 SK24 平・断面図、出土遺物



第47図 SK01 平・断面図、出土遺物

第48図 SK06 平・断面図



第49図 SK12 平・断面図

S K O 6 (B4) (第48図)

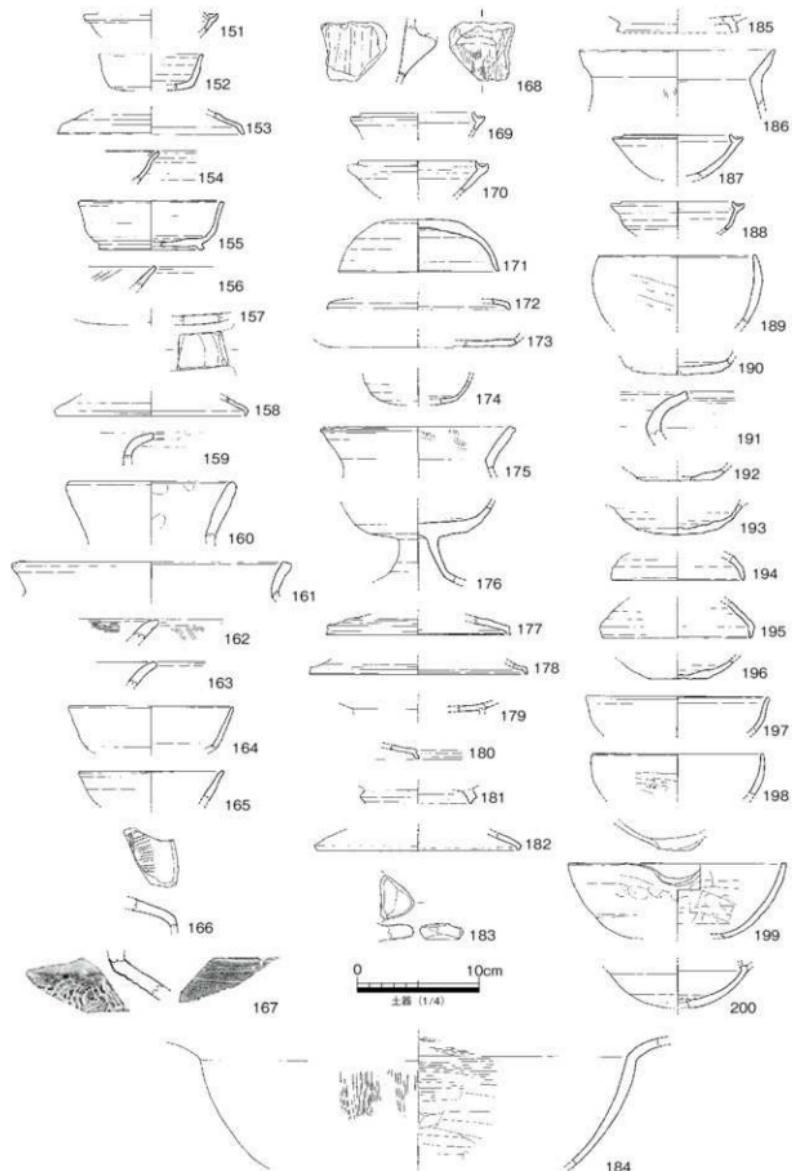
拳大の円碟を埋めた土坑である。摩滅した土師器・須恵器の小片が出土している。実測可能な遺物はない。

S K 1 2 (B3) (第49図)

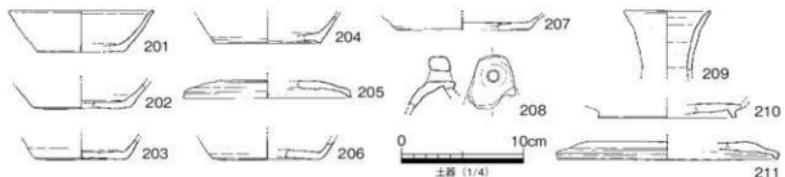
銅錢が出土している。近世以降の時期が考えられる。

4 ピット等出土遺物（第50・51図）

ピット及び小規模な土坑から出土した遺物をここでまとめて報告する、記載順は、調査区番号順、造構番号順とする。出土位置、器種等は観察表を参照されたい。



第50図 ピット等出土遺物 1



第 51 図 ピット等出土遺物 2

5 包含層等出土遺物（第 52 ~ 54 図）

表土、包含層、攪乱土から出土した遺物をここで報告する。

212 ~ 214 は、1 区の表土及び攪乱土から出土した。212・213 は須恵器である。214 は土師器である。215 ~ 237 は、1 区耕作土下の床土層から出土した。215 ~ 236 は須恵器である。237 は灰釉陶器皿である。238 ~ 279 は、1 区包含層から出土した。238 ~ 269 は須恵器である。270 ~ 278 は土師器である。279 は平瓦である。

280 ~ 287 は、2 区の表土及び攪乱土から出土した。280 ~ 282 は綠釉陶器である。283 は陶器甕である。284 ~ 287 は須恵器である。284 は円面鏡である。288 ~ 293 は、2 区耕作土下の床土層から出土した。288 は中国産青磁である。289 は綠釉陶器である。290・291 は須恵器である。292 は平瓦である。293 はふいごの羽口である。294 ~ 309 は、2 区包含層から出土した。294・295 は灰釉陶器に類似する。296 ~ 306 は須恵器である。307 ~ 309 は土師器である。

310 ~ 315 は、3 区包含層から出土した須恵器である。

316 ~ 318 は、4 区から出土した。316 は包含層から出土した綠釉陶器椀である。317 は包含層から出土した黒色土器 A 類椀である。318 は遺構検出時に出土した不明遺物である。同心円状の切り込みを伴う剥離痕がある。

319 ~ 322 は、5 区から出土した。319 は表土直下から出土した須恵器である。320 は包含層から出土した綠釉陶器皿である。321 は遺構検出時に出土した綠釉陶器皿である。322 は遺構検出時に出土した平瓦である。

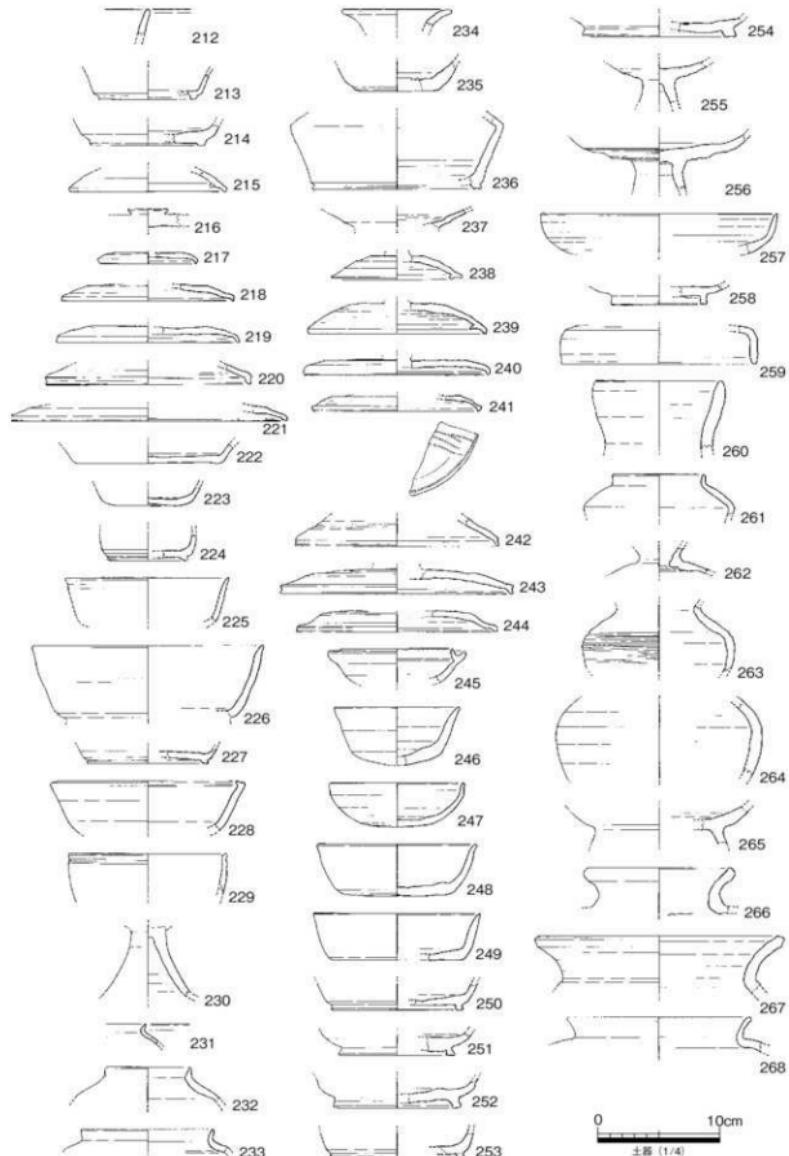
323・324 は、6 区の攪乱土及び調査区壁面から出土した綠釉陶器と平瓦である。

325 は、7 区の攪乱土から出土した綠釉陶器椀である。

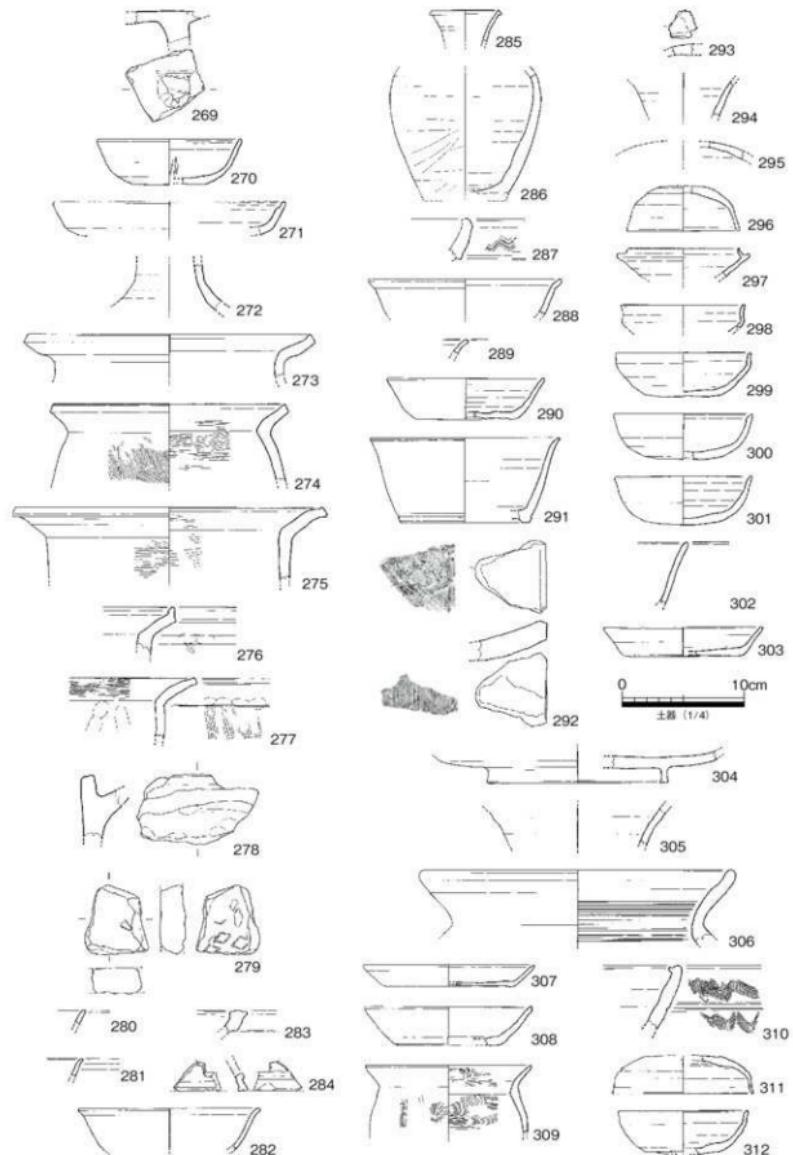
6 出土石器及び金属器（第 55 図）

7 世紀から平安時代にかけての遺構とは関連のない石器及び金属器をまとめて報告する。

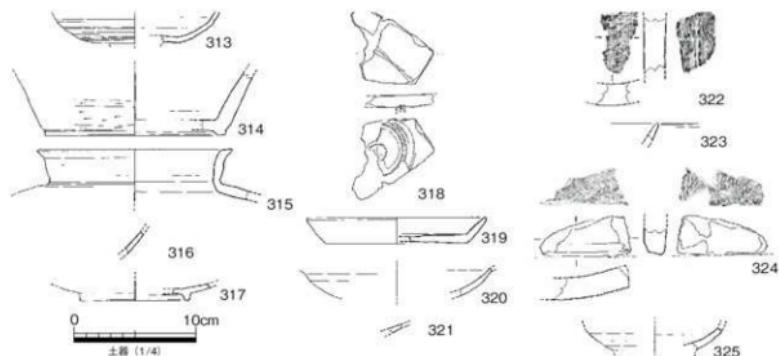
326 ~ 336 はサスカイト製の石鎌である。337 はサスカイト製の石錐である。338 は砥石である。339 は銅地銀貼りの耳環である。



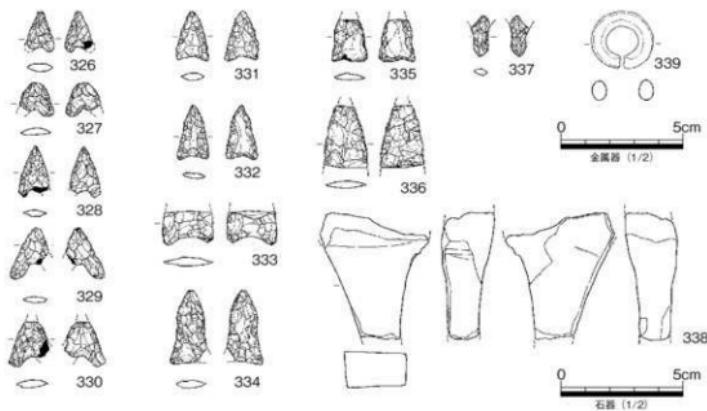
第 52 図 包含層等出土遺物 1



第 53 図 包含層等出土遺物 2



第 54 図 包含層等出土遺物 3



第 55 図 出土石器及び金属器

第4章　まとめ

当遺跡で中心を占めるのは7世紀代の竪穴建物と奈良時代のものと考えられる掘立柱建物である。掘立柱建物のうち、SB01からはTK217型式段階の遺物が出土しているが、竪穴建物より新しいことから、ほかの掘立柱建物と同様、奈良時代のものと考えられる。このうち、もっとも新しいと考えられるSB03の主軸方位はN 12° Eで、当遺跡近辺で見られる条里型方格地割の方向N 11° Eに近い。また、SB01もN 10° Eでこれに近い。他の2棟は、N 90° EとN 5° Eと座標北に近い。この2群の建物が時期差を持つ可能性がある。高松平野中央部では、多肥北原遺跡の調査までは、7世紀から奈良時代の集落跡は見つかっていなかったが、多肥北原遺跡調査後、その西側にある多肥北原西遺跡、太田原高州遺跡という同じ県道予定地の調査でも同期の集落が確認され、さらに最近南西1.5 km離れた仏生山町の萩前・一本木遺跡で同時期の集落跡が確認されてきており、高松平野中央部における当時期の集落の様相が明らかになりつつある。

平安時代の遺物は、小片ながら少くない綠釉陶器の破片や灰釉陶器の破片が出土しているが、確實な平安時代の遺構は2基のみと少ない。一方、当遺跡南西200 mの位置には、調査が行われておらず実態は明らかでないが、布目圧痕のある瓦が採集されたり、方形の土壙の記録が残るなど、古代寺院と考えられる多肥廃寺が推定されていた。平成22年度に調査を実施した多肥北原西遺跡は、多肥廃寺の北には隣接する遺跡で、調査の結果、平安時代後期の大量の須恵器・土師器のほかに平瓦、丸瓦、軒丸瓦が出土し、古代寺院の存在の可能性を高めたといえる。当遺跡の平安時代の遺物は、この多肥廃寺と関わりがあるものと考えられる。

第3表 土器觀察表

標本 番号	調査 区	遺構名	場所	種類	器形	調整	内面			外側			法縫			色調			複合串	備考
							左毛	右毛	左筋	右筋	左毛	右毛	左筋	右筋	左毛	右毛	左筋			
31	2.K	SH09	北西	須恵器	杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25Y5/1 黄	25Y5/2 黄	25Y5/3 黄	1.8		
32	2.K	SH09	北西	須恵器	高杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N6/ 灰	N6/ 灰	N6/ 灰	1.8	未調	
33	2.K	SH09	南西	須恵器	越杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N7/ 灰白	N7/ 灰白	N7/ 灰白	2.8		
34	2.K	SH09	東東	土師器	要	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25Y8/3 淡黄	10YR8/8 黄	10YR8/8 黄	1.8			
35	2.K	SH09	南東	土師器	要	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	3YR6/8 灰	3YR6/8 灰	3YR6/8 灰	1.8			
36	2.K	SH09	南東	土師器	要	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	10YR8.4	10YR8.4	10YR8.4	1.8			
37	2.K	SH09	南西	土師器	毫	不明	(7.7)	不明	(7.7)	直	直	直	直	10YR7.3	10YR7.3	10YR7.3	1.8	未調		
38	2.K	SH10	中央北半	須恵器	杯蓋	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N6/ 灰	N6/ 灰	N6/ 灰	1.8	未調	
39	2.K	SH10	北西	須恵器	杯蓋	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	75Y5/1 灰	75Y5/1 灰	75Y5/1 灰	1.8	未調	
40	2.K	SH11	横道・地上	須恵器	杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N7/ 灰白	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1.8		
41	2.K	SH11	カマツ	土師器	毫	不明	(7.7)	不明	(7.7)	直	直	直	直	直	直	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	1.8	
42	2.K	SH08	SH11 (北西側周)	須恵器	杯蓋	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N7/ 灰白	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1.8		
43	2.K	SH11	北西	須恵器	杯蓋	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N6/ 灰	N6/ 灰	N6/ 灰	1.8		
44	2.K	SH11	西半	須恵器	杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	1.8		
45	2.K	SH11	北東	須恵器	杯身	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N5/ 灰	N5/ 灰	N5/ 灰	3.8		
46	2.K	SH11	北東	須恵器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N5/ 灰	N5/ 灰	N5/ 灰	1.8	未調	
47	2.K	SH11	北東	須恵器	高杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	1.8		
48	2.K	SH11	西半 (SH11-13)	土師器	毫	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25Y8.4	3YR6/6 明	3YR6/6 明	1.8	未調		
49	2.K	SH11	北東	土師器	毫	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	3YR6/6 灰	3YR6/6 灰	3YR6/6 灰	1.8	未調		
50	2.K	SH11	東半	須恵器	毫	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	1.8			
51	2.K	SH11	西半	土師器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	10YR8.3	10YR8.3	10YR8.3	1.8		
52	2.K	SH11	北東	土師器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	1.8		
53	2.K	SH12	北東	須恵器	杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	25YR7.6 灰	1.8		
54	2.K	SH12	南西	須恵器	毫	不明	(7.7)	不明	(7.7)	直	直	直	直	直	直	25Y8.2 灰	25Y8.2 灰	25Y8.2 灰	1.8	
55	2.K	SH12	南西	須恵器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	5YR7.1 灰白	5YR7.1 灰白	5YR7.1 灰白	1.8	未調	
56	2.K	SH12	北東	土師器	毫	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	10YR8.3	10YR8.3	10YR8.3	1.8	未調		
57	2.K	SH13	南東 (底圈 下部)	須恵器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N7/ 灰白	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	1.8	未調	
58	2.K	SH13	北西 L字レシナ	須恵器	杯	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1.8	未調	
59	2.K	SH13	北東	須恵器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	N6/ 灰	N6/ 灰	N6/ 灰	1.8		
60	2.K	SH13	南東 (底圈 下部)	須恵器	毫	圓柱形	口縫口4°	口縫口4°	直	直	直	直	直	直	25Y3.4 黄	25Y3.4 黄	25Y3.4 黄	1.8		

編号 番号	調査名	部位	種類	形態	調査		計上		法基		色調		保存率	
					内面	外面	(右耳) 赤耳鰓 長毛	(左耳) 赤耳鰓 短毛	頭皮	頭皮 (左耳)	(左耳) 毛皮 (右耳)	外胚	内胚	
61 2区 SH13 北西 L字レーンチ			須虫器	高杯										1.8
62 2区 SH13 東半 (試験) ～15の通し番号)			土蜘蛛	皿	不明(7.9)	不明(7.9)	口輪(後) 体側(後)アリ 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ 体側(後)アリ	75YR7.6 棕	N6/ 灰	1.8	
63 2区 SH14 東西掘り下 F			須虫器	杯蓋	要				中・少 (15.0)					
64 2区 SH14 P17			土蜘蛛	皿					中・少 (10.1)					
65 2区 SH14 試掘ト レーンチより北			土蜘蛛	皿					中・少 (24.2)					
66 2区 SH14 南半 (試験) 内とそく用)			須虫器	杯蓋	要				中・少 (13.7)					
67 2区 SH14 南半 (試験) 内とそく用)			須虫器	杯蓋	要				中・少 (11.2)					
68 2区 SH14 レーンチより北			須虫器	杯	要				中・少 (11.6)					
69 2区 SH14 切り合い、堆 シングルトドリ打			須虫器	杯	要				中・少 (8.6)					
70 2区 SX15 西半 東西 掘トレンチより北			須虫器	杯蓋	要				中・少 (5.0)					
71 2区 SX15 西半 東西 掘トレンチより北			須虫器	杯蓋	要				中・少 (11.2)					
72 2区 SX11 西半 (試験) トレンチより北			須虫器	杯蓋	要				中・少 (13.3)					
73 2区 SX11 南半 (試験) トレンチ内中央)			須虫器	杯蓋	要				中・少 (10.9)					
74 2区 SX11 東部 (試験) トレンチより北)			須虫器	高杯	要				中・少 (7.0)					
75 7区 SX16 前 (壁部分) SH01 壁溝			須虫器	杯	要				中・少 (8.3)					
76 7区 SX16 前東			須虫器	杯	口輪～体側面 口輪未調整	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	中・少 (11.4)	(5.7)	N5/ 灰	N6/ 灰	2.8	
77 7区 SX16 前西			土蜘蛛	皿	不明(7.9)	アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	75YR7.6 棕	25YR6.8 棕	1.8未調	
78 7区 SX16 前西 P20			土蜘蛛	皿	不明(7.9)	アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	75YR7.6 棕	25YR6.8 棕	1.8未調	
80 立合 レーンチ SH01 壁溝			須虫器	杯	口輪～体側面 口輪未調整	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	25YR6.3 棕 少、黄	N5/ 灰	8.8	
81 3区 SP16 (南半)			須虫器	杯	体側(後)アリ 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	25YR6.1 棕	25YR6.2 棕白	8.8	
82 1区 SP20 南半			須虫器	杯	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	5Y6.1 棕	1.8未調		
83 1区 SP20 南半			土蜘蛛	皿	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	25YR6.8 棕	1.8未調		
84 1区 SP20 南半			須虫器	皿	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	5Y6.1 棕	1.8未調		
85 1区 SP20 南半			須虫器	皿	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	口輪(後) 体側(後)アリ	25YR6.8 棕白	25YR6.8 棕白	1.8	

編 文 番 号	調査 区	遺構名	場所	種類	器種	調整		點上		剖面		色調	内部	残存率	備考
						外觀	内觀	長	幅	厚	深				
86	1 区	SP730 南半	土師器	杯	不明 (7.9)	不明 (7.9)							10YR5/3 浅黄	2.8	
87	1 区	SP734 北半	須恵器	杯	不明 (7.9) 高台付 圓底付*	不明 (7.9)							10YR5/3 浅黄	2.8	
88	1 区	SP734 南半	土師器	須恵器	杯	不明 (7.9) 高台付 圓底付*	不明 (7.9)						NV/灰	1.8	
89	1 区	SP734 南半	土師器	甕	33.7*	圓底付*		33.7*	14.6	6.4			5Y8/2灰白 10YR5/3灰 45°・直腹	1.8	
90	1 区	SP90 南半 (A)	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				5Y7/1灰白	3.8	
91	1 区	SP90 南半 (B)	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				NS/灰	1.8	溝
92	1 区	SP151 潟東部	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				75YR7/6 灰 10YR7/6 灰	1.8	
93	4 区	SP151 潟東部	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				25Y7/2灰白 25Y7/2灰白	1.8	
94	4 区	SP153 東半	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				5Y6/1灰白 5Y6/1灰白	1.8	
95	4 区	SP159	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				NS/灰	1.8	
96	6 区	SP325 C (南西)	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				25Y7/2灰白 25Y7/2灰白	1.8	
97	6 区	SK03 A (北東)	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				10Y7/1灰白 75YR6/1灰	1.8	
98	3 区	SK03 B (南東)	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				25Y7/1灰白 25Y7/1灰白	1.8	溝
99	3 区	SK03 C (南西)	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				NS/灰	1.8	
100	4 区	SK13 東半	土師器	甕	口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	6.4				25YR6/4 10YR5/5 灰	1.8	
101	4 区	SK13 東半	土師器	甕	口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	6.4				25YR7/4 5YR6/6 灰	1.8	溝
102	4 区	SK13 東半	土師器	甕	口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2)	6.4				5YR6/6 灰	8.8	
103	5 区	SK20 糜の中	須恵器	甕	不明 (7.9)	圓底付*		不明 (7.9)	6.4				10YR8/3 浅黄	1.8	
104	5 区	SK20 糜の中	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				25Y7/2灰白 25Y7/2灰白	1.8	
105	5 区	SK20 糜の中	土師器	甕	口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2)	6.4				25YR6/4 10YR5/5 灰	8.8	
106	5 区	SK20 北東	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				10YR7/3 25Y6/1黄灰	1.8	溝
107	5 区	SK20 南西	土師器	甕	口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	6.4				5YR5/4 10YR5/5 灰	1.8	
108	5 区	SK20 南西	土師器	甕	口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	6.4				10YR8/6 黄白	1.8	
109	5 区	SK22 南西	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				25Y6/1黄灰	1.8	
110	5 区	SK15 東部	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				5Y7/1灰白	1.8	溝
111	5 区	SK15 中央南	須恵器	甕	高台付 圓底付*	圓底付*		高台付 圓底付*	6.4				10YR6/3 45°・黄	1.8	
112	5 区	SX15 北西部 L字ランチ	須恵器	甕	口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2) 口縫付 (8.2)	6.4				5Y6/1灰白	1.8	
113	3 区	SK02 南半 (断 面Pより前)	土師器	甕	口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2)	6.4				75YR7/4 10YR5/5 灰	1.8	
115	3 区	SK02 南部 断面より前)	須恵器	甕	口縫付 (8.2)	圓底付*		口縫付 (8.2)	6.4				N7/灰白	1.8	

編号	圖名	部位	種類	摘要	剖面				色調	保存率	備考
					外圈	內圈	(右美) 帶毛刺 長毛	帶毛刺 短毛			
116 5.K	SD14 東半	須毛器	杯型	圓柱形 圓柱形	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8未満	
117 5.K	SD14 肩より東	須毛器	高台杯	圓柱形 圓柱形	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8未満	
118 7.K	SD15	須毛器	杯型	圓柱形 圓柱形	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
119 7.K	SA17	須毛器	杯型	圓柱形 圓柱形	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
120 6.K	SD17	須毛器	杯型	圓柱形 圓柱形	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
121 6.K	SD19 條丸の中央部	須毛器	杯型	圓柱形 圓柱形	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
122 6.K	SD19S D17 との合流部より北	土胎器	盤	635×1 237	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8未満	
123 6.K	SD19 南半	土胎器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8未満	
124 3.K	SX02 P1	須毛器	杯	口縁~体凹板 子 635未満整	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	4.8	
125 4.K	SD16 南半	輪轉陶器	盤	輪轉	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	3.8	
127 4.K	SP136	土胎器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
128 7.K	SK24 脊(東)	須毛器	盤	不明(?) 635未満整 子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
129 7.K	SK24 北西	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
130 7.K	SK24 脊(西)	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
131 7.K	SK24	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
132 7.K	SK24 由東	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
133 7.K	SK24 北東	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
134 7.K	SK24 脊(東)	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	
135 7.K	SK24	須毛器	盤	口縁端子 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8未満	
136 7.K	SK24	須毛器	高台杯	體~底子凹板 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	2.8	
137 7.K	SK24 脊(東)	須毛器	高台杯	體~底子凹板 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	2.8	
138 7.K	SK24 南東	須毛器	高台杯	體~底子凹板 底子 直下子	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	NS/灰	1.8	

編文 番号	遺構名	部位	種類	器種	調整			法器 (1件) (1件)	法器 (1件) (1件)	色調	内部	残存率	備考	
					内面	外面	長さ							
139 7 KZ SK24 北東			須恵器	高台付杯 x3件 内側未調整	体-高台付杯 x3件 内側未調整	回転手		面・少	(118)	3V7.1 黄白	3V6.1 黄	1.8		
140 7 KZ SK24 町(西)	2脚	須恵器	盞	体-高台付杯 x2件 内側未調整	回転手	回転手		面・少	6.7	3V4.1 黄	3V4.1 黄	8.8		
141 7 KZ SK24 北東		土師器	皿	x3件	x3件	口縁23°		中・少	(226)	10YR8.4 黄灰白	10YR8.4 黄灰白	1.8	未調	
142 7 KZ SK24 北西		土師器	碗	底凹板手	口縁23°	底凹板手		中・少	(157)	25YR6.6 紅	1.8	未調		
143 7 KZ SK24 北東	2脚	土師器	盞	x2件	口縁23°	指付後板手		中・少	3	10YR5.2 黄白	10YR4.1 黄灰	3.8		
144 7 KZ SK24 町(東)	2脚	土師器	盞	口縁23°	口縁23°	口縁23°		中・少	(178)	25YR5.3 黄白	25YR5.3 黄白	1.8	未調	
145 7 KZ SK24 南半	Y型	土師器	盞	口縁23°	口縁23°	口縁23°		中・少	(212)	25YR5.4 黄白	25YR5.4 黄白	1.8		
146 7 KZ SK24 南西		土師器	盞	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・多	(248)	25YR5.6 黄白	25YR7.6 紅	3.8		
147 7 KZ SK24 北西		土師器	盞	口縁23°	口縁23°	口縁23°		中・少	(280)	10YR6.6 明眞白	10YR6.6 明眞白	2.8		
148 7 KZ 北西 SK24		土師器	羽釜	口縁23°	口縁23°	口縁23°		中・少	(252)	5VR6.6 紅	5VR4.2 黄白	1.8		
149 3 KZ SK01 東半		須恵器	皿	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少	(110)	N6/ 黄	N7/ 黄白	3.8		
150 3 KZ SK01 東半		須恵器	平底把手 x2件	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		5V7.1 黄白	5V6.1 黄	1.8	未調	
151 1 KZ SP21		須恵器	杯	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少	(84)	5V7.1 黄白	5V6.1 黄	1.8		
152 1 KZ SP22 東半		須恵器	杯	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		25YR7.1 黄白	N7/ 黄白	1.8		
153 1 KZ SP24 北半		須恵器	杯	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		N7/ 黄白	N7/ 黄白	1.8	未調	
154 1 KZ SP24 南半		須恵器	杯	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		5V7.1 黄白	5V7.1 黄白	1.8	未調	
155 1 KZ SP25 南半		須恵器	高台付杯 x2件 内側未調整	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少	(120)	4.0	(78)	25Y7.1 黄白	2.8	
156 1 KZ SP24 北半		十脚器	皿	x3件	x3件	x3件		面・少		25YR7.8 紅	25YR6.8 紅	1.8	未調	
157 1 KZ SP26 北半		須恵器	瓶	回転手	回転手	回転手		面・少		25YR7.2 黄	10YR7.2 黄	1.8	未調	
158 1 KZ SP23		須恵器	糸巻	回転手	回転手	回転手		面・少		N3 黄灰	N4 黄灰	1.8		
159 1 KZ SP25 東半		土師器	甕	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		25YR6.4 黄白	10YR6.3 黄	1.8	未調	
160 1 KZ SP29		土師器	甕	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		10YR7.4 黄 45°・黄白	10YR7.4 黄 45°・黄白	1.8		
161 1 KZ SP29		土師器	甕	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少	(218)	10YR7.2 黄 45°・黄白	10YR7.2 黄 45°・黄白	1.8	未調	
162 1 KZ SP42 北半		土師器	甕	x3件	x3件	x3件		面・少		10YR8.2 黄白	10YR8.3 黄白	1.8	未調	
163 1 KZ SP94		土師器	甕	口縁23°	口縁23°	口縁23°		面・少		10YR8.4 黄白	10YR8.6 紅	1.8	未調	
164 1 KZ SP53		須恵器	甕	回転手	回転手	回転手		面・少	(124)	5V7.1 黄白	5V7.1 黄白	1.8		
165 1 KZ SP75		須恵器	甕	回転手	回転手	回転手		面・少	(117)	5V7.1 黄白	5V6.1 黄	1.8	未調	

編號 卷首	圖版名	部位	種類	憑據	摘要		點上		剖面		色調		灰度 值	備考	
					外圈	內圈	(左美) 赤鈍角 長毛	赤鈍角 黑鈍角	鈍尾 (右美)	鈍尾 (左美)	外延 (右美)	內延 (左美)			
166 1 K SP75		須志器	圓	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			中·少		75Y7.1 黑	75Y7.1 黑白	8.8		
167 1 K SP75		須志器	圓	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			中·多		5B57.1 明 青黑	5B57.1 明 青黑	1.8	未測	
168 1 K SP75		土牆器	瓶	把手	把手“ 把手”	把手“ 把手”			中·少		5XY8.4 淺黃 12.5% 色	5XY8.4 淺黃 12.5% 色	8.8		
169 1 K SP76		須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(93)	NS/ 黑	NS/ 黑	1.8		
170 1 K SP77	東半	須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(95)	NS/ 黑	NZ/ 黑	2.8		
171 1 K SP80		須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(132)	4.3 (68)	25Y8.1 黑白	25Y8.1 黑白	4.8	
172 1 K SP83		須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(150)	5Y5.1 黑	5Y5.1 黑	1.8		
173 1 K SP83		須志器	盤	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(150)	NS/ 黑	NS/ 黑	1.8		
174 1 K SP90		須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(63)	NS/ 黑	NS/ 黑	2.8		
175 1 K SP93		土牆器	盤	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(152)	10Y8.4 淺黃 10% 色	10Y8.4 淺黃 10% 色	1.8		
176 1 K SP104	東半	須志器	高杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			中·多		3Y8.1 黑白	3Y8.1 黑白	5.8		
177 1 K SP105	北半	須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(150)	25Y7.2 黑白	25Y7.2 黑白	1.8		
178 1 K SP105	北半	土牆器	盤	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(180)	NS/ 黑	NS/ 黑	1.8	未測	
179 1 K SP105	北半	須志器	盤	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(96)	3Y6.6 褐	3Y6.6 褐	1.8		
180 1 K SP106		須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(96)	NS/ 黑	NS/ 黑	1.8	未測	
181 1 K SP108		須志器	高杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(170)	25Y7.1 黑白	25Y7.1 黑白	1.8	未測	
182 1 K SP109		須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少		5Y5.6 明 赤褐色	5Y5.6 明 赤褐色	8.8		
183 1 K SP109		土牆器	把手	圓孔	-	-			面·少						
184 1 K SP111		土牆器	盤	口體凹 體凹Y	口體凹Y 後板凹Y	口體凹Y 後板凹Y			中·多		75Y7.7 3.4% 色	10Y7.3 黑	1.8	外面面上有 附着物	
185 1 K SP115		土牆器	盤	圓孔	不明 (73)	不明 (73)				(100)	10Y8.6 明黃褐色	10Y8.6 明黃褐色	1.8	未測	
186 1 K SX09		土牆器	盤	圓孔	不明 (74)	不明 (74)			中·多	(158)	10Y8.7 明黃褐色	5Y7.6 黑	1.8		
187 2 K SP116		須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(68)	5Y6.1 黑	NZ/ 黑	2.8		
188 2 K SP116		須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(110)	3Y8.4 5% 黃褐色	10Y8.6.3 黑	1.8		
189 2 K SP116		土牆器	盤	圓孔	不明 (77)	不明 (77)			面·少	(130)	NS/ 黑	NS/ 黑	1.8		
190 2 K SP118		須志器	杯	底凹切口未整	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			中·少	(74)	25Y7.1 黑白	25Y7.1 黑白	2.8		
191 2 K SP116		土牆器	盤	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少		10Y8.4 淺黃 10% 色	75Y8.6 淺黃	1.8	未測	
192 2 K SP225		須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(56)	NS/ 黑	25Y6.1 黑	2.8		
193 2 K SK15	西半	須志器	杯	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(69)	NS/ 黑	NS/ 黑	2.8		
194 2 K SK16		須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(108)	5Y6.1 黑	5Y6.1 黑	1.8	未測	
195 2 K SK17		須志器	杯蓋	圓孔	圓孔“ 圓孔”	圓孔“ 圓孔”			面·少	(120)	NS/ 黑	NS/ 黑	1.8		

标本 号	属种名	部位	種類	形态	调整			基部 長さ	基部外側 幅	基部 厚さ	基部 長さ /幅	基部 厚さ /幅	基部 長さ /厚さ	外部	内部	残存率	備考
					外面	内面	背面										
196 2 K	SK16	须虫器	杯	不明(1自然軸)回転 ⁺				中・少		(4.6)	7.5Y1/3暗 4.7W						
197 2 K	SK16	土脚器	皿	不明(1自然軸) 口縁 ⁺ 口内 ⁺ 体不明(7.9)				中・少	(15.0)						N7/灰白	1.8	未測
198 2 K	SK16	土脚器	杯	口縁 ⁺ 口内 ⁺ 体不明(7.9)				中・少							5YR7/6暗	5YR7/8暗	1.8未測
199 2 K	SP169	土脚器	鉢	指状後板 ⁺ 体不明(7.9)				中・少	(14.0)						5YR7/8暗	5YR7/8暗	1.8未測
200 4 K	SP166	须虫器	杯	口縁 ⁺ ~体弱 明(1自然軸)				中・少	(17.8)						10YR5/2 灰黄	10YR7/3 ⁺ 灰·黄	1.8
201 5 K	SP250	须虫器	杯	指状後板 ⁺ 体不明(7.9)				中・少		(5.4)					N6/灰	N7/灰白	1.8
202 5 K	SP253	須虫器	杯	口縁 ⁺ 外側回転 ⁺ 体不明(7.9)				中・少	(12.0)	3.4	(7.3)				5Y7/4灰白	5Y7/4灰白	1.8
203 5 K	SP253	須虫器	杯	口縁 ⁺ 外側回転 ⁺ 体不明(7.9)				中・少		(8.0)					25Y6/2灰黄	25Y6/1黄灰	1.8
204 5 K	SP253	須虫器	杯	口縁 ⁺ 外側回転 ⁺ 体不明(7.9)				中・少		(7.5)					5Y7/4灰白	N6/灰	4.8
205 5 K	SP256	須虫器	杯蓋	体弱 ⁺ 外側回転 ⁺ 口縁 ⁺				中・少		(8.6)					7.5Y6/1灰 5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	1.8
206 5 K	SP204	須虫器	杯	体弱 ⁺ 外側回転 ⁺ 口縁 ⁺				中・少		(11.0)					25Y6/1黄灰	25Y6/1黄灰	1.8未測
207 5 K	SP275	須虫器	杯	体弱 ⁺ 外側回転 ⁺ 口縁 ⁺				中・少		(11.7)					K3/黄灰	N4/灰	1.8
208 6 K	SP207	鰐虫器	鉢	不明(1自然軸) 指状 ⁺				中・少	(7.0)						25Y7/1灰白	25Y7/1灰白	2.8
209 6 K	SP315	須虫器	皿	高台付 ⁺ 回転 ⁺				中・少		(11.2)					N5/灰	N4/灰	1.8
210 6 K	SP318	須虫器	杯	高台付 ⁺ 回転 ⁺				中・少		(8.0)					25Y6/1灰白 5Y8/1灰白	25Y7/1灰白 5Y7/1灰白	2.8
211 6 K	SP287	須虫器	杯	高台付 ⁺ 回転 ⁺				中・少							10YR6/1灰白 5Y7/1灰白	10YR6/1灰白 5Y7/1灰白	1.8未測
212 1 K	表土	須虫器	高台付 ⁺ 回転 ⁺	不明(7.9)				中・少		(8.1)					10Y4/1灰白	10Y4/1灰白	1.8未測
213 1 K	表土	須虫器	高台付 ⁺ 回転 ⁺	不明(7.9)				中・少		(9.5)					5YR7/8暗 4.5W	5YR7/8暗 4.5W	8.8
214 1 K	試標レシナ(復数)	上脚器	高台付 ⁺ 回転 ⁺	不明(7.9)				中・少	(13.0)						N5/灰	N4/灰	1.8
215 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							7.5Y6/1灰 N8/灰白	7.5Y6/1灰 N8/灰白	1.8未測
216 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							N5/灰	N4/灰	1.8未測
217 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							5YB4/1暗 青灰	5YB4/1暗 青灰	2.8
218 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							5R5/1灰	5R5/1灰	1.8未測
219 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							N6/灰	10Y7/1灰白	1.8
220 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							5Y6/1灰	5Y7/1灰白	1.8
221 1 K	表土層	須虫器	杯蓋	回転 ⁺				中・少							N7/灰白	10Y7/1灰白	1.8未測
222 1 K	表土層	須虫器	皿	回転 ⁺ 外側回転 ⁺				中・少							5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	2.8

編號 卷序	遺構名	層位	種類	摘要		斷土上		斷土下		剖面		色調	內部	保存率	備考	
				外圓	內圓	長	寬	厚度	長	寬	厚度					
223 1 K	灰土層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				中・少		(6.6)	NS/灰	5Y5/1 灰	2.8		
224 1 K	灰土層		須惠器	高台杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				中・多			NS/灰	GPSS/1 黃灰	1.8		
225 1 K	灰土層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[134]		NA/灰	NA/灰	1.8		
226 1 K	灰土層		須惠器	高台杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				中・少	[19.2]		NS/灰	NA/灰	1.8	刻溝	
227 1 K	灰土層		須惠器	高台杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少		(9.8)	N7/灰白	N7/灰白	2.8		
228 1 K	灰土層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[16.0]		75Y6/1 灰	NS/灰	1.8	刻溝	
229 1 K	灰土層		須惠器	碗	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・多	[128]		NA/灰	75Y5/1 灰	1.8		
230 1 K	灰土層		須惠器	碗	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[15.9]		5Y8/1 灰	5Y8/1 灰	2.8		
231 1 K	灰土層		須惠器	盤	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[6.7]		NS/灰	NA/灰	1.8	刻溝	
232 1 K	灰土層		須惠器	盤	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[10.8]		NA/灰	NA/灰	1.8		
233 1 K	灰土層		須惠器	盤	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[9.0]		75G7/3/1	NS/灰	1.8	刻溝	
234 1 K	灰土層		須惠器	盤	不明(自然燒)				中・少			面底灰	NA/灰	1.8	刻溝	
235 1 K	灰土層		須惠器	盞	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				中・少		(7.0)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1.8		
236 1 K	灰土層		須惠器	盞	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				中・少		(14.0)	NA/灰	NA/灰	1.8	刻溝	
237 1 K	灰土層		灰陶陶器	皿	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少			25SY4/1 灰白	75Y7/2 灰白	1.8	刻溝	
238 1 K	遺構檢出(北西端)		須惠器	杯蓋	口淺圓腹盤口 小方孔口				面・少			3V6/1 灰	3V6/1 灰	2.8		
239 1 K	包含層		須惠器	杯蓋	口深圓腹盤口 小方孔口				面・少	[14.4]		5V6/1 灰	N7/灰白	2.8		
240 1 K	包含層		須惠器	杯蓋	大平底盤口				面・少	[15.0]		25SY4/1 灰白	25SY4/1 灰白	2.8		
241 1 K	包含層		須惠器	杯蓋	圓腹盤口				面・少	[13.4]		NS/灰	10Y5/1 灰	1.8		
242 1 K	包含層		須惠器	杯蓋	圓腹盤口				面・少	[16.6]		25SY6/1 黃灰	3Y6/1 灰	1.8		
243 1 K	包含層		須惠器	杯蓋	口淺圓腹盤口 小方孔口				面・少	[19.0]		75Y7/1 灰白	75Y7/1 灰白	1.8		
244 1 K	包含層		須惠器	杯蓋	口淺圓腹盤口 小方孔口				面・少	[16.5]		25Y8/1 灰白	25Y8/2 灰白	1.8		
245 1 K	包含層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[9.2]		75Y7/1 灰白	75Y7/1 灰白	1.8		
246 1 K	包含層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・少	[10.2]		(7.5)	N7/灰白	NA/灰白	2.8	
247 1 K	包含層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				面・多	[10.9]		3E/6/0	25Y8/2 灰白	1.8		
248 1 K	包含層		須惠器	杯	體圓柱形 底圈足圈 圈底形 ⁺				中・少	[13.0]		3V6/7/6 盒	3V6/7/6 盒	3.8		

編 號 番 号	圖 版 頁 面	遺構名	層位	種類	器種	調整			色調	內部	殘存率	備考
						外面	內面	長軸				
249	1 K	包含層		須忠器	杯	口邊薄(外緣厚)、體不明 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			黑·少 (13.8)	3.8 (0.7)	75YR7/6 棕	2.8
250	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體不明 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (0.9)	0.9 (1.0)	75Y4/1 棕	1.8
251	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體不明 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (0.9)	0.9 (1.0)	5Y6/1 棕	2.8
252	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·多 (1.0)	75Y5/1 棕	2.8	
253	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.0)	25Y7/2 黑黃	2.8	
254	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·多 (1.2)	75Y8/1 棕白	1.8	
255	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·多 (1.2)	5Y7/1 棕白	4.8	
256	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·多 (1.8)	5Y8/1 棕白	8.8	
257	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	75Y6/1 棕	1.8	
258	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	N/A 棕灰	3.8	
259	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	N/S 棕	1.8	
260	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	N/S 棕	1.8	
261	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	5Y7/1 棕白	1.8	
262	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	5Y7/1 棕白	3.8	
263	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	5Y7/1 棕白	3.8	
264	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	25Y7/2 黑黃	1.8	
265	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	10YR7/3 黑 5Y,黃輪	1.8	
266	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	25Y8/2 黑白	2.8	
267	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓			中·少 (1.9)	25Y7/1 棕白	1.8	
268	1 K	包含層	須忠器	高台杯	體~底外向形 (上方)、底不圓 (下方)、底不圓	體不明(上方)、體不明 (下方)、體不明			中·少 (1.9)	N/A 棕	1.8	
269	1 K	包含層		須忠器	高台杯	體不明(上方)、體不明 (下方)、體不明			中·多 (1.9)	10YR7/1 黃	8.8	
270	1 K	包含層		土師器	杯	不明(?)	少少		中·少 (1.9)	75Y8/6	1.8	
271	1 K	包含層		土師器	杯	不明(?)	不明(?)		中·少 (1.9)	75Y8/6	1.8	
272	1 K	包含層		土師器	高杯	不明(?)	不明(?)		中·少 (1.9)	5YR7/6 棕	1.8	
273	1 K	包含層		土師器	高杯	不明(?)	不明(?)		中·多 (2.0)	10YR6/2	1.8	
274	1 K	包含層		土師器	高杯	不明(?)	不明(?)		中·少 (2.0)	5YR7/4 黑 5Y,黃輪	1.8	
275	1 K	包含層		土師器	高杯	不明(?)	不明(?)		中·多 (2.0)	10YR6/4 黑 5Y,黃輪	1.8	

編号	圖例	遺構名	部位	種類	摘要		斷土上		斷土下		剖面		色調	內部	外延	發達率	備考
					外圓	內圓	(右)長石	(左)長石	砂質	粘土	砂質	粘土					
276	1区 包含層	土燒器	裏	口徑32釐米 體厚5釐米	不明								中・少	75YR6·4 15·5%・褐	1·8未滿		
277	1区 包含層	土燒器	裏	口徑32釐米 體厚5釐米	[口徑32釐米 體厚5釐米]								中・少	107YR8·3 10·9%・褐	1·8未滿		
278	1区 包含層	土燒器	裏	口徑32釐米 體厚5釐米	[不明(付物)]								中・少	3YR5·4 45%・赤褐色	1·8未滿		
279	1区 包含層	瓦	平瓦	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR8·2灰白	8·8		
280	2区 試掘トレンド	綠釉陶器	燒	綠釉陶器	綠釉								高・少	5YR8·2灰白	8·8		
281	2区 田耕作土	綠釉陶器	燒	綠釉陶器	綠釉								高・少	NG/灰	1·8未滿		
282	2区 田耕作土	綠釉陶器	燒	綠釉陶器	綠釉								高・少	5G/5·4 5%・灰	1·8未滿		
283	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	75YR5·3灰 9%・灰	1·8未滿		
284	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	25YR6·2灰黃 1%・灰	1·8未滿		
285	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	107YR7·1灰白	1·8未滿		
286	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8		
287	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8		
288	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
289	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
290	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
291	2区 田耕作土	陶器	裏	圓面積子母瓦	圓面積子母瓦								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
292	2区 田耕作土	青磁	燒	綠釉陶器	綠釉								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
293	2区 田耕作土	青磁	燒	綠釉陶器	綠釉								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
294	2区 包含層	灰陶陶器	?	灰陶陶器	?								高・少	5YR4·1灰 1%・灰	1·8未滿		
295	2区 包含層 (灰陶器)	灰陶陶器	燒	灰陶陶器	圓面積子母瓦								高・少	107YR6·1灰 1%・灰	1·8		
296	2区 包含層	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR6·2 1%・灰	1·8未滿		
297	2区 SX12 東半	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR7·1灰白	1·8未滿		
298	2区 SX13	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR7·1灰白	1·8未滿		
299	2区 SX12 東半	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR7·1灰白	1·8未滿		
300	2区 包含層	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR7·1灰白	1·8未滿		
301	2区 包含層	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR8·3 1%・灰	3·8		
302	2区 SX12 西半	須惠器	杯	須惠器	杯								高・少	107YR7·1灰白	1·8未滿		
303	2区 包含層	須惠器	皿	須惠器	皿								高・少	NG/灰	2·8		

編文 番号	遺構名	場所	種類	器種	調査			法基 上	色調	内部	残存率	備考
					外側	内側	長さ					
304	2区 包含層		須恵器	皿	体(輪)49.1' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (15.0)	5Y7.1 黄白	5Y7.1 黄白	2.8	
305	2区 包含層		須恵器	盃	圓輪形器	直	直	直・短 (15.0)	25Y7.1 黄白	25Y7.1 黄白	1.8 東側	
306	2区 包含層		須恵器	盃	圓輪形器	直	直	直・短 (15.0)	25Y7.1 黄白	25Y7.1 黄白	1.8 東側	
307	2区 包含層		土師器	杯	口縁～体(輪)49.1' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (10.9)	5Y7.6 紅	5Y7.6 紅	3.8	
308	2区 包含層 (底張部)		土師器	杯	口縁～体(輪)49.1' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (8.9)	5Y8.6 橙	5Y8.6 橙	1.8	
309	2区 包含層		土師器	盃	口縁不明 7.7' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (13.7)	5Y8.6 橙	5Y8.6 橙	3.8	
310	3区 包含層	2層	須恵器	盃	圓輪形器	直	直	直・短 (11.5)	NS/ 灰	NS/ 灰	1.8 東側	
311	3区 包含層	2層	須恵器	盃	口縁不明 7.7' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (11.5)	5Y6.1 灰	5Y7.1 黄白	3.8	
312	3区 P7		須恵器	杯	口縁～体(輪)49.1' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (10.6)	NS/ 灰	NS/ 灰	3.8	
313	3区 包含層	2層	須恵器	盃	圓輪形器	直	直	直・短 (14.6)	NS/ 灰	NS/ 灰	1.8	
314	3区 包含層	2層	須恵器	盃	体上平不明 体下 高台明 7.7' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (14.8)	10Y6.1 灰	10Y5.1 黄白	1.8	
315	3区 包含層	2層	須恵器	盃	口縁不明 7.7' 体(輪)49.1'	直	直	直・短 (15.8)	5Y5.1 灰	5Y6.1 灰	2.8	
316	4区 包含層	1層	綠釉陶器	鉢	綠釉	直	直	直・短 (9.1)	75YR7.6 紅	75YR3.1 黑褐色	1.8 東側	
317	4区 包含層	2層	黑色土器	鉢	不明 (7.7') 3.5' 4'	直	直	直・短 (9.1)	75Y8.1 黄白	75Y8.1 黄白	1.8	周心円の切り込み
318	4区 遺構検出 前西		不明	不明	中・心切欠け不 明 (7.7') 3.5' 4'	直	直	直・短 (11.6)	10Y8.2 黄白	10Y8.2 黄白	1.8 東側	
319	5区 西半 士塗直下の積合		須恵器	皿	口縁～体(輪)49.1'	直	直	直・短 (2.1)	75Y5.1 黄白	NS/ 黄白	3.8	
320	5区 東半 包含層	2層	綠釉陶器	鉢	口縁不明 (7.7') 不明 (7.7')	直	直	直・短 (3.6)	10Y8.2 黄白	10Y8.2 黄白	1.8 東側	
321	5区 山の腰掛より内		綠釉陶器	皿	口縁不明 (7.7')	直	直	直・短 (3.6)	25Y8.2 黄白	25Y8.2 黄白	1.8 東側	
322	5区 山の腰掛より内		巴曲布目鏡	皿	口面輪凹口付	直	直	直・短 (3.6)	75Y6.1 黄白	75Y6.1 黄白	8.8	
323	6区 東半 観乱		綠釉陶器	鉢	口縁不明 (7.7')	直	直	直・短 (3.6)	75Y5.2 黄	75Y5.2 黄	1.8 東側	
324	6区 腰掛区壁切り		綠釉陶器	皿	口面輪凹口付	直	直	直・短 (2.0)	25Y5.2 黄	25Y5.2 黄	8.8	
325	7区 觀乱 東半		綠釉陶器	鉢	口縁不明 (7.7')	直	直	直・短 (2.0)	10Y6.2 黄	10Y6.2 黄	1.8 東側	

第4表 石器観察表

番文番号	調査区	遺物名	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石持	備考
335	4区	遺物検出(蛇骨)		石頭	1.6	1.1	0.4	0.48	±0.01	
327	1区	灰土層		石頭	1.4	1.4	0.3	0.45	±0.01	
328	2区	SH177		石頭	2.1	1.2	0.3	0.62	±0.01	
329	5区	中央~西 包含層 茶色シルト		石頭	2.1	1.6	0.25	0.66	±0.01	
330	2区	SH213		石頭	1.9	1.7	0.3	0.81	±0.01	
331	2区	西半 遺物検出 (SH113西側)		石頭	2.1	1.0	0.3	0.75	±0.01	
332	1区	遺物検出(北~西部)		石頭	2.2	1.3	0.2	0.53	±0.01	
333	3区	SH103 A (北東)		石頭	1.4	2.1	0.4	0.97	±0.01	
334	5区	西半 包含層 茶色シルト		石頭	3.0	1.5	0.3	1.34	±0.01	
335	1区	灰土		石頭	1.8	1.4	0.3	0.86	±0.01	
336	3区	西半 遺物検出		石頭	2.6	1.8	0.3	1.65	±0.01	
337	3区	西半 遺物検出		石頭	1.7	0.8	0.25	0.40	±0.01	
338	1区	包含層		砾石	5.2	4.5	2.1	400.3	凝灰岩	

第5表 金属器観察表

番文番号	調査区	遺物名	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	備考
79	7区	SH16 南西		鍼	3.3	6.8	0.8	37.50	真	
114	3区	SD01 南半(前面P上り南)		鍼	4.8	2.5	0.2	131.13	鐵	
125	3区	SH102 B (南東)		鍼	3.3	4.8	0.9	17.36	鐵	
339	4区	包含層 M1耳環	1層	耳環	2.3	2.5	0.8	130.6	銅鑄製品	

図版 1 多肥北原遺跡



調査区全景 東から



1区 完掘区 全景 東から

図版2 多肥北原遺跡



1区 完掘全景 西から



2区 完掘全景 南から

図版3 多肥北原遺跡



2区 完掘全景 東から



3区 第2遺構面完掘全景 西から

図版4 多肥北原遺跡



4区 完掘全景 東から



4区 完掘全景 西から

図版 5 多肥北原遺跡



5区 完掘全景 東から



5区 完掘全景 南から

図版 6 多肥北原遺跡



6区 完掘全景 東から



6区 完掘全景 西から

図版 7 多肥北原遺跡



7区 完掘全景 西から



7区 完掘全景 東から

図版 8 多肥北原遺跡



1区 東壁土層断面（北端付近） 西から



1区 東壁土層断面（SX10付近） 西から



1区 南壁土層断面（SH06付近） 北から



1区 南壁土層断面（SH05付近） 北から



2区 南壁土層断面（SH14付近） 北から



2区 南壁土層断面（SH13付近） 北から



3区 北壁土層断面（SH04付近） 南から



3区 北壁土層断面（東端） 南から

図版9 多肥北原遺跡



3区 南壁土層断面（SH01 東半付近） 北から



3区 南壁土層断面（SH01 中央付近） 北から



4区 北壁土層断面（SH07 付近） 南から



4区 北壁土層断面（東端） 南から



7区 南壁土層断面（東半） 北から



7区 南壁土層断面（西半） 北から



8区 南壁土層断面（東半） 北から



8区 南壁土層断面（西半） 北から

図版 10 多肥北原遺跡



SH01 完掘 南から



SH01 煙道断面 南から



SH01 竈部分 東から



SH01 竈部分 東から



SH01 土器出土状況 南から



SH02・SD02 完掘 南から



SH02 南北断面（北半） 西から



SH02 焼土出土状況 南から

図版 11 多肥北原遺跡



SH02 窑完掘 南から



SH02 土器出土状況 北から



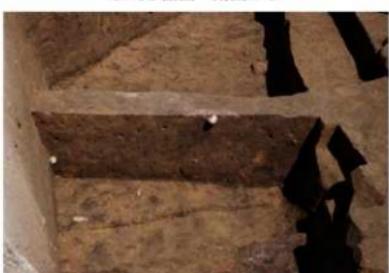
SH03 完掘 西から



SH03 断面 南西から



SH04（東半）完掘 東から



SH04（東半）断面 西から



SH04（西半）完掘 南から



SH05 床面検出 北から

図版 12 多肥北原遺跡



SH05 断面 東から



SH06 竈袖部礫出土状況 南から



SH06 床面検出状況 南から



SH06 断面 北から



SH06-SP130 断面 北から



SH06-SP131 断面 北から



SH08 完掘 南から



SH08 完掘 東から

図版 13 多肥北原遺跡



SH08 北壁炭・焼土出土状況 南から



SH09 完掘 東から



SH09 完掘 南東から



SH09 断面 南東から



SH09 北壁焼土検出 南から



SH10 断面 東から



SH11 窟完掘 南から



SH11・13 完掘 南から

図版 14 多肥北原遺跡



SH11 壁溝検出 西から



SH11 煙道部検出 北から



SH11 南北断面（北半） 東から



SH11 煙道断面 北から



SH11 電炭・焼土検出 南から



SH11 窯断面 南から



SH12 完掘 北から



SH12 断面 南から

図版 15 多肥北原遺跡



SH13 完掘 南から



SH13 北壁焼土 東から



SH13 東西断面（東半） 北から



SH14 床面 南から



SH14 土器出土状況 南から



SH14 焼土 西から



SH15 完掘 北から



SH15 完掘 東から

図版 16 多肥北原遺跡



SH13・14・15 断面 北から



SX16 完掘 東から



SX16 断面 東から



SX16 罐付近焼土 東から



SX16 土器出土状況 南東から



SB01 完掘 西から



SB02 完掘 東から



SB03 完掘 東から

図版 17 多肥北原遺跡



SB04 完掘 北から



SK03 積出土状況 南から



SK03 断面 南西から



SK10 断面 南から



SK11 完掘 南から



SK11 断面 東から



SK13 完掘 南東から



SK13 土器出土状況 東から

図版 18 多肥北原遺跡



SK14 完掘 西から



SK20 碓出土状況 南から



SK20 断面 北西から



SK21 断面 西から



SK22 断面 南東から



SD01 完掘 南から



SD01 断面 南から



SD02 断面 北から

図版 19 多肥北原遺跡



SD14 断面 東から



SD15 断面 南から



SD17 断面 西から



SD19 断面 南から



SX02 完掘 南から



SX02 断面 南東から



SX05 完掘 東から



SX05 断面 東から

図版 20 多肥北原遺跡



SX10 東から



SP136 土器出土状況 南から



SK24 碓・土器出土状況 東から



SK24 土器出土状況 南から



SK24 断面 南から



SK24 完掘 北から



SK01 断面 東から



SK06 完掘 南から

図版 21 多肥北原遺跡



SK06 断面 北から



SK12 完掘 南から



SK12 断面 南東から

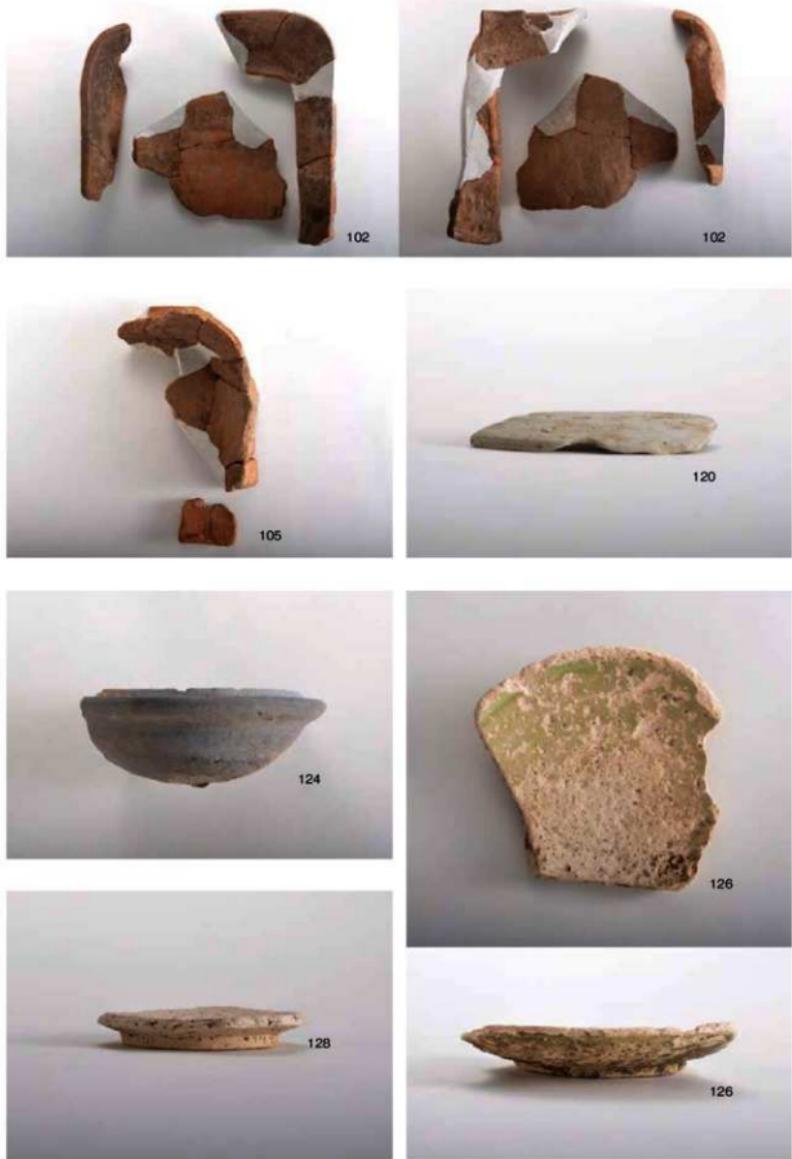
図版 22 多肥北原遺跡



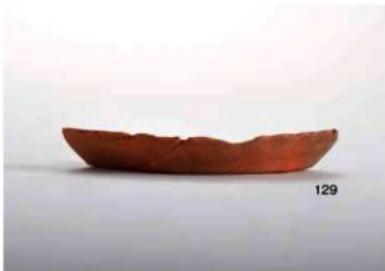
図版 23 多肥北原遺跡



図版 24 多肥北原遺跡



圖版 25 多肥北原遺跡



129



132



133



137



140



143



146



147

圖版 26 多肥北原遺跡



148



155



157



166



170



171

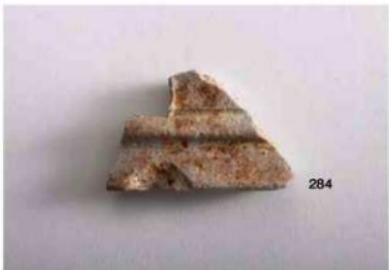


176



187

図版 27 多肥北原遺跡



圖版 28 多肥北原遺跡



296



290



291



294



295



296



299

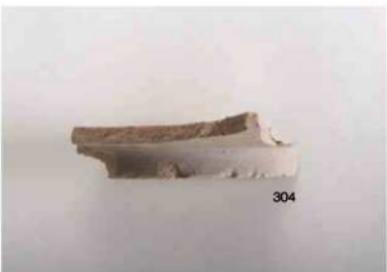


300

図版 29 多肥北原遺跡



301



304



307



309



311



312



317



318

図版 30 多肥北原遺跡



図版 31 多肥北原遺跡



報告書抄録

ふりがな	たひきたはらいせき						
書名	多肥北原遺跡						
副書名	県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	山下平重						
編集機関	香川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249						
発行機関	香川県教育委員会						
発行年月日	西暦 2012 年 3 月 13 日						
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数
112 頁	22 頁	46 頁	13 頁	31 頁	55 枚	191 枚	1 枚

所取遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町	遺跡 番号					
多肥北原遺跡	香川県高松市 多肥上町	37201		34° 17' 40.5"	134° 2' 53.7"	20090801 ～ 20100331	2086	県道 太田上町 志度線 道路改築

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
多肥北原遺跡	集落跡	7 世紀～奈良時代 平安時代	竪穴建物 挖立柱建物 土坑 井戸 土坑	土師器 須恵器 鉄鎌 耳環 縄輪陶器 灰釉陶器	

要約 (多肥北原遺跡)	7 世紀～奈良時代頃の竪穴建物及び掘立柱建物が検出された。当時期の集落遺跡は、高松平野で数少ないものである。また近くに比定される古代寺院多肥廃寺との関わりを考えさせる平安時代の遺物も出土している。
----------------	--

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

多肥北原遺跡

2012年3月13日

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249
発行 香川県教育委員会
印刷 株式会社 成光社



付図 多肥北原遺跡 遺構配置図 (1:150)

香川県教育委員会